

令和5年度



ふるさと夢プロジェクト

事業報告書



令和6年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

目 次

1.	はじめに	1
2.	令和5年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」実施計画	2
3.	4年生「町内お宝発見ツアー」	4
4.	5年生「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」	13
5.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	35
6.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」小学校事業を振り返って	51
7.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」中学校事業について	57
8.	おわりに	60

は じ め に

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えるなか、地方の若い世代が大都市部に流出することにより、さらに予想を超えるスピードで少子化が進み、人口減少も加速しています。

北広島町では平成 29 年に「第 2 次北広島町長期総合計画」を策定しました。教育部門で「夢と希望、豊かな学び合いにあふれたまちづくり」を掲げ、「ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子供・若者・大人の育成」に取り組んでいます。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業は、小学校事業で、地域の皆様のご協力をいただきながら、学校間の垣根を越えた同学年が同じ活動や体験をする取組、中学校事業では、各学校で地域資源を生かした取組を行っています。新型コロナウイルス感染拡大により、ここ数年オンラインで行っていた活動もありますが、今年度は、ほぼ感染症流行前の形で交流をしながら各活動を行うことが出来ました。こうした取組を通して、町内には多くの魅力や素敵な大人がたくさんいることを子供たちは感じています。この事業を将来の定住や北広島町を応援する気持ちを持った子供が育つことに繋がたいと思っています。こういった事業はすぐに結果が表れるものではなく、地道な活動の積み重ねになりますが、子供たちの北広島町での様々な体験がこの町への愛着へと繋がると信じています。

北広島町では、令和 5 年 11 月にアメリカ合衆国で北広島町を代表する伝統芸能「神楽」を公演しました。鑑賞された 700 人あまりの方に感動していただき、なかなか鳴り止まないスタンディングオベーションを受けました。こうした伝統文化なども、次代へ受け継ぐと共に、たくさんの人に北広島町の魅力をもっと伝えていきたいと思います。

これからの時代は、従来の価値観や技術にとらわれず、新たな発想と試行錯誤を繰り返し、未来を切り開く力が求められます。私たちには、ときに厳しい表情をみせる自然とともに暮らしてきた知恵と技術があり、先人から受け継いだ文化があります。未来を生きる子どもたちには、本事業を通して、これら地域の誇りを学び、それを礎にして激動する時代の中でたくましく生きていく人間に育っていくことを願ってやみません。

町民の皆さま、地域の皆さまの益々のご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

北 広 島 ふ る さ と 夢 プ ロ ジ ェ ク ト 応 援 隊
隊 長 箕 野 博 司
(北 広 島 町 長)

令和5年度 「北広島ふるさと夢プロジェクト」実施計画

1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊について

事業目的:「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい、子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町の定住対策として、教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい子どもの育成」を目的とし、「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町の「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力をお子たちに再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。

全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

事業主体 北広島町

主 管 北広島町教育委員会

組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員として、町長部局の総務課・まちづくり推進課・商工観光課の職員、教育委員会の職員。

(事業実施については、教育委員会事務局及び校長会が主体となっていく。)

教育委員会事務局を事業事務局とする。また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	畑田 正法 (副町長)	池田 庄策 (教育長)
隊員	川手 秀則 (総務課長)	矢部 芳彦 (まちづくり推進課長)
	中川 克也 (商工観光課長)	教育委員会職員
	大丸 哲男 (小学校代表)	棚田 隆志 (中学校代表)
	二井岡 直文 (小学校代表)	
事務局	植田 伸二 (事務局長)	小椿 治之 (事務局次長)
	槇本 妙子 (事務局員)	松長 二三枝 (事務局員)

2 具体的な事業の目的と本年度の取組について

小学校事業については、年度当初に、教育委員会と代表校長で協議を行い、諸計画を作成する。

新型コロナウイルス感染症の対策を万全にとることを前提とし、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」講演会を現地にて実施、ロケット製作を行う。5年生の「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」は学校間交流も含め実施する。4年生については、昨年度同様、町内の魅力を体験する「町内お宝発見ツアー」を学校毎に実施する。

■ 4年「町内お宝発見ツアー」

○町内の自然を生かした体験活動や施設・企業の見学を通して、ふるさとのよさを実感させる。

■ 5年「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」

- 民泊の1つのプログラムとして、自然の豊かさ、地域の方々との触れ合いの楽しさを学ばせ、ふるさとの良さを実感させる。
- 児童同士が協働して体験をすることで、お互いの親睦を図り、課題解決能力や協働する力を養う。

■ 6年「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

- 植松電機 植松社長の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めさせる。
- ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

■ 中学校事業

- 各学校ごとに「ふるさとを愛し、誇りをもつ心を育てる」ことを目的とした事業を行う。

4 年 生 「町内お宝発見ツアー」



令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

八重小学校

1 実施した活動について

- 【期日】 令和5年9月1日（金）
【場所】 ユートピアサイオト
芸北高原（おーいの丘）
芸北高原の自然館
【人数】 児童27人 引率3人
【ねらい】

北広島町内の特色について知り、ふるさとについての理解を深めるとともに、ふるさとへの愛着を高め大切にしようとする気持ちをもたせる。

2 活動の様子

「ユートピアサイオト」では、3つの班に分かれ、職員の方に教えていただきながらジップラインの体験を行った。自然の中で活動する楽しさや気持ちよさを存分に感じることができた。

「芸北高原の自然館」と「八幡高原（おーいの丘）」では、トレッキングガイドの方に解説していただきながら展示の見学や散策を行った。見晴らしの良い丘の上でやまびこを楽しんだり、初めて見る植物や動物の足跡を熱心に観察したりと、実際に体験することで自然への興味が高まった。

3 児童の感想

○ユートピアサイオト

- ・ジップラインは、最初は怖かったけど、友達と「1. 2. 3. ゴー！！」と声を掛け合い楽しむことができた。
- ・友達と協力して取り組み、一緒に楽しんだことでさらに仲が深まった気がした。
- ・自分が住んでいる地域にこんな施設があるなんて知らなかったです。今度は家族と来たいです。

○芸北高原の自然館・八幡高原（おーいの丘）

- ・知らない花や動物のことについて知ることができた。
- ・おーいの丘で、かけっこややまびこをしました。とてもきれいな丘でつい走りたくなりました。

4 活動を終えて

子供達は、どの体験も心から楽しみ、北広島町のよさを感じることができた。これから「北広島町や自然のことについてもっと知りたい」と意欲が高まっている様子だった。

また、夏休み明けの9月に実施をしたことで、子供同士のつながりをつくり、2学期からの学校生活に前向きに取り組もうとする態度を養うことにもつながった。



【ユートピアサイオト】



【ユートピアサイオト】



【芸北高原（おーいの丘）】



【芸北高原（おーいの丘）】

令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

壬生小学校

1 実施した活動について

【期日】 令和5年9月25日（月）

【場所】 ユートピアサイオト、芸北高原の自然館
芸北高原（おーいの丘）

【人数】 児童15人 引率3人

【ねらい】

- ・町内の自然を生かした体験活動や地域の方との触れ合いを通してふるさとの良さを実感する。
- ・友達と自然の中での体験活動を通して、課題解決する力や協働する力を養う。



【ジップラインの説明を聞く児童】

2 活動の様子

ユートピアサイオトでは、ジップラインを体験しました。安全に活動できるよう、講師の先生方の話を真剣に聞いていました。最初は恐怖心から、なかなか一歩が踏み出せない児童もいましたが、みんなで励まし合い、声を掛け合って活動していました。

芸北高原では、八幡湿原・おーいの丘を散策したのち、高原の自然館を見学しました。八幡湿原では、湿地に生息する植物について、ガイドの方に解説していただきました。児童は、危険な植物や食べられる植物などを聞きながら、楽しく散策していました。おーいの丘では、やまびこ体験をしました。最初は本当に声が返ってくるのか、半信半疑な児童もいましたが、やまびこが聞こえると、「本当に声が返ってきた！」と喜んでいました。高原の自然館では、芸北地域に生息する動植物を見学しました。動物の剥製や昆虫の標本など、なかなか目にすることのない動植物にふれることができました。



【ジップラインを滑走する児童】



【自然館で剥製にふれる児童】

3 児童の感想

ジップラインを滑走しているときに、手をあげたり足を伸ばしたりすると途中で止まるかもしれないと思って、片手をあげたり、最後に足を伸ばしたりして宙づりにならずにすみました。勇気があればいろんなことができると思いました。はじめは怖いかんと思っていただけ、勇気を出してチャレンジすれば怖くないと思えました。八幡湿原を探索したとき、普通の葉っぱかと思っていたけど触ったらかぶれることを知って怖いと思いました。土によって生えている植物が違うことをはじめて知りました。自然館では魚や虫を見たり触ったり持ち上げたりしてどんな感じか知ることができました。周りには危険な植物があるから、もっと学びたくなりました。

4 活動を終えて

八幡湿原・高原の自然館では、壬生・南方地域では普段の生活の中で見ることもない動植物にたくさんふれることができ、周りの動植物に興味をもつきっかけになったと思う。

ジップラインでは、「3、2、1、ゴー！」の掛け声を合図にスタートするという体験を通して、声を掛け合ったり励まし合うなど、みんなで協力すれば、恐怖を乗り越えられるということに児童が気付き、実感するきっかけになった。この体験から、これから田楽や壬生小金管バンド演奏披露のため、多くの舞台を経験する児童が、周りの仲間同士で支え合いながら、目標に向かって乗り越えていくことを期待したい。

令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

八重東小学校

1 実施した活動について

【期日】 令和5年9月29日（金）

【場所】 ユートピアサイオト・芸北高原の自然館

【人数】 児童20人 引率2人

【ねらい】

北広島町の自然の生かした体験や見学をして、ふるさとのよさを感じる。

2 活動の様子

ユートピアサイオトでのジップライン体験では、インストラクターによる装備の確認や注意事項の説明がされた後、森の中に入りジップラインの活動を行った。65～147mの全6コースを回った。ジップラインの高さやスピードに不安を感じ、なかなかスタートを切ることができない児童も数名いたが、活動を終えて、多くの児童から「またやりたい」、「楽しかった」などの声上がり、中には「自然を感じることができた」という感想を持つ児童もいた。

芸北高原の自然館では、八幡高原の散策を行い、八幡高原ならではの自然に触れた。普段児童が目に見ている草木や動物たちとは異なった自然を発見・観察することを通して、場所や気温・湿度などの条件が異なることでそこに生息する生き物も異なるということが児童の大きな気づきとなり、動植物に対してより興味・関心を持つきっかけとなった。

3 児童の感想

- ジップラインは、思ったより高くてちょっと怖かったけど、勇気を出してスタートしてみると飛んでいるような気分になってとても楽しかったです。
- 友達と手をつないでジップラインをしました。友達と一緒にだったから怖いと思うことなく楽しめました。
- 八幡高原の色々な植物を見ることができた。普段見ているものとは違った生き物について知ることができた。
- 湿度や気温、日光の当たり具合などいろんな条件が違くと住む生き物が違うことに驚いた。身の回りの生き物についても調べてみたい。

4 活動を終えて

今回の活動で児童は「北広島町の自然」についてしっかりと考えることができたと感じる。事前に北広島町の自然や自然を生かした取り組みについての学習を行うことで、より教育効果を高める活動になったと思う。



【ジップライン体験】



【グループに分かれて集合写真】



【八幡高原の散策】



【おーいの丘で集合写真】

1 実施した活動について

【期日】 令和5年10月6日（金）

【場所】 芸北民俗芸能保存伝承館・北広島町まちづくりセンター・戦国の庭歴史館・大朝テングシデ群落
大朝郷土資料室・北広島町図書館

【人数】 児童 9人 引率2人

【ねらい】 町内の施設見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。

2 活動の様子

「芸北民俗芸能保存伝承館」では、北広島町の伝統芸能や伝統工芸品について、職員の方の話を聞いたり、直接触れたりして、自分たちの住む町の魅力について考えた。本地花笠踊りに通ずる歴史についても学ぶことができ、「戦国の庭歴史館」「大朝郷土資料室」での展示内容と関連付けて地域学習を深めることができた。

「北広島町まちづくりセンター」では、施設を見学し、様々な活動ができる部屋があることを知ることができた。この施設に加えて「北広島町図書館」を見学し、本への親しみをさらに深めた。

「大朝テングシデ群落」では、テングシデの名前の由来や歴史、地域の方の思いを学んだ。

3 児童の感想

- 伝承館で本地の花笠が展示してあるのを見て、これからも地域の伝統を大切に守っていきたくて改めて思いました。
- 花笠踊りの由来に関係する吉川元春の居城跡に行き、当時の様子を伺い知ることができました。
- まちづくりセンターや北広島町図書館には、たくさんの本がありました。北広島町図書館には、本が117,135冊もあると聞き、驚きました。また、「本地村史」という本もありました。この本には、本地の歴史が書かれているそうなので、本を借りて、本地について調べてみたいと思いました。

4 活動を終えて

自分たちが住んでいる町内なのに、これまで知らなかった新しい発見がたくさんあり、町内の施設・自然に関心を持つことができた。また、校区の本地の文化・歴史をあらためて見つめ直す機会にもなった。特に、総合的な学習の時間で学んできた花笠踊りについては、継承していくことの大切さについても実感することができたようである。

見学したことをもとに、「本地っ子発表会」で本地の魅力について地域や保護者の皆さんに発信を行った。



【芸北民俗芸能保存伝承館】



【北広島町まちづくりセンター】



【戦国の庭歴史館】



【テングシデの幹の大きさ調べをしている様子】

令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

芸北小学校

1 実施した活動について

- 【期日】 令和5年10月19日（木）
【場所】 テングシデ群落・オオアサ電子
北広島町図書館・上本家住宅・ちゅピCOM
【人数】 児童9人 引率2人
【ねらい】

「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」という事業目的を達成するために、町内をめぐり、「お宝」を発見することで町の良さに気付いたり自分の将来について考えたりする。

2 活動の様子

「テングシデ群落」では、国の天然記念物に指定されているテングシデを見ました。遺伝子変異によって曲がりくねった枝を見ることができました。地域の人がこのシデを「テングシデ」と名付けて守ろうとするなど地域の人々の思いも知ることができました。「オオアサ電子」では、全方位型のスピーカーの迫力ある音を聞いたり、それを実際、作っているところを見せていただいたりしました。画面が浮かび上がる映像では、みんなびっくりしていました。「北広島町図書館」では、館内の説明を聞いた後、それぞれがお気に入りの本をお借りしました。たくさん本があり、どれを借りるか迷っていました。「上本家住宅」では、お弁当を食べました。武一騒動の発端の場所であることを初めて知りました。「ちゅピCOM北広島」では、スタジオ見学をした後、スタジオで実際にアナウンスやカメラ役などをさせていただき、自分の夢について伝える番組の収録体験をしました。放送局の仕事について学ぶことができました。

3 児童の感想

10月19日に夢プロジェクトの町内たんけんをしました。まずテングシデを見ました。テングシデは、国の天然記念物ですごく迫力を感じました。次にオオアサ電子に行きました。スピーカーを作っていて細かい部分は、手作業でやっていてすごいと思いました。そして図書館に行きました。図書館の仕組みについて知りました。最後にちゅピCOMに行きました。収録体験などが楽しかったです。

4 活動を終えて

各見学場所では、丁寧な説明を受け、充実したふるさと夢プロジェクトになりました。子供達にとっても有意義な活動となり、自分の将来を考えるきっかけにもなったと感じました。



【テングシデ群落】



【オオアサ電子株式会社】



【北広島町図書館】



【ちゅピCOM】

令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

大朝小学校

1 実施した活動について

- 【期日】 令和5年10月27日（金）
【場所】 北広島町まちづくりセンター・ちゅピ COM
芸北民俗芸能保存伝承館・
SuiSui（KumahiraPark 北広島）
【人数】 児童7人 引率2人
【ねらい】

北広島町の各施設で職員の方の話を聞いたり、施設を見学したりすることを通して、施設や仕事の工夫、自分たちの住む町の魅力を見つける。



【芸北民俗芸能保存伝承館での見学】

2 活動の様子

千代田地域にある4つの施設を見学させていただいた。

「北広島町まちづくりセンター」では、館内を案内していただく中で、館内の設備や工夫についての説明を聞き、誰もが使いやすい施設になるように考えられていることを感じていた。

「ちゅピ COM」では、ケーブルテレビの歴史等の説明を聞いたり、番組制作に関わる仕事の体験をさせていただいたりした。カメラの重さへの驚きやピント合わせの難しさ、キャスターとしてカメラの前に立った時の緊張感など、体験したからこそ得られるつぶやきや表情があった。



【ちゅピ COM でのカメラ体験】

「芸北民俗芸能保存伝承館」では、北広島町の歴史や文化を施設の方の説明や季節ごとの展示から学んだ。同じ町内でもその土地でしかない行事や文化に驚いたり、昔のくらしに使われていた道具に興味を持ったりする姿が見られた。

「SuiSui（KumahiraPark 北広島）」では、プールやジムの見学をさせていただいた。プールの水を触り水温を確かめたり体を鍛えるための様々なマシンにのったりするなどの体験活動も多くさせていただき、町内にこのような施設があることを初めて知り、利用してみたいと感じていた。

3 児童の感想

- まちづくりセンターには、色がついている部屋があり案内がしやすいことや、音声で案内してくれるトイレがあり、目の不自由な人でも利用できることがわかり、びっくりしました。
- （ちゅピ COM で）カメラを持ってピントを合わせるのが難しくて、想像以上に重かったです。編集には撮影の倍くらい時間がかかると聞いて、それだけの手間をかけて番組を作ってくれているんだということを知りました。
- 芸北民俗芸能保存伝承館で、花田植の牛が着ける「くら」はオスとメスでは大きさや名前が違うことを知りました。
- 温水プールは冬でも温かい温度にしてあることや、車いすでもプールに入れることがわかりました。いつかSuiSuiに泳ぎに行きたいです。

4 活動を終えて

今回見学させていただいた4つの施設について、入ったことのない児童がほとんどだった。「こんな所があったんだ」という発見とともに、地域のくらしをよりよくしようとされている施設での工夫や設備、北広島町の歴史や文化を大切にされている方々や施設について知るよい機会になった。

令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

豊平小学校

1 実施した活動について

【期日】 令和5年10月27日（金）

【場所】 芸北民俗芸能保存伝承館・オオアサ電子
北広島町まちづくりセンター・北広島町図書館

【人数】 児童20人 引率2人

【ねらい】

北広島町の「お宝（いいところ、すごいところ）」を見つけ、郷土愛を育む。

2 活動の様子

伝承館では、花田植や神楽に使われる道具の実物を見て、社会科「郷土の伝統」への理解がさらに深まりました。神楽団に所属する児童もあり、誇らしそうにしていました。

北広島町まちづくりセンターでは、地域の交流拠点として様々な催し物を開くための設備の工夫を学びました。焼き物の窯まであることに驚いていました。

オオアサ電子では、スピーカーを組み立てている作業を見学させていただいたり、実際に音を聞かせていただいたりしました。「（映画を見て）砂のつぶつぶの音まで聞こえる！」と驚き、高級オーディオの世界を体験しました。

北広島町図書館では、ちょうどハロウィンの時期に重なり、イベント展示を見ることができました。また、読み聞かせをしていただいたり、図書の貸し出しをしていただいたりしました。翌週の読書朝会では、借りた本を大切に読んでいました。

雨、風、雹に見舞われる荒天だったものの、帰り際には虹をかける粋な演出をしてくれ、北広島町のお宝を味わったよい1日となりました。

3 児童の感想

○花田植を見て、私もやりたくなりました。

○北広島町に、すごいスピーカーを作る会社があるなんて知りませんでした。すごいみりよくがたくさんあったし、音のひびき方がとてもきれいでした。

○町内には、いたるところにお宝がありました。

4 活動を終えて

同じ町内であっても、知らなかったこと、知ってはいるけれど見たことはなかったもの等、児童にはそれぞれの発見がありました。「また行ってみたい」「今度はやってみたい」という感想が見られたことが、お宝発見ツアーの大きな成果ではないかと思いました。荒天でテングシデ群落を見ることができませんでしたが、いただいたパンフレットに目を通し、「晴れたら家族で行ってみよう」と期待している姿も印象的でした。



【北広島の伝統を知る（伝承館）】



【地域の交流拠点を見学（まちづくりセンター）】



【高級オーディオの世界へ（オオアサ電子）】



【ハロウィン展示（北広島町図書館）】

令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 3・4年生 活動報告

新庄小学校

1 実施した活動について

【期日】 令和5年11月24日（金）

【場所】 北広島町まちづくりセンター・ちゅピCOM・芸北民俗芸能保存伝承館

【人数】 児童7人 引率2人

【ねらい】 北広島町内にある施設を見学することで、その施設がどのような働きをし、北広島町民の生活を豊かにしているか、また、北広島町内に伝わる伝統芸能について学習する。また、そこで働く人々の工夫や思い、願いについても聞き取る等して、北広島町の魅力を再発見する。

2 活動の様子

最初に訪問した北広島町まちづくりセンターは、一年に一度実施している蔵書点検のため、閉鎖中の図書館を特別に見せていただきながら、ここは北広島町図書館（新庄学園横）の別館としての機能を持ち、子ども向けの絵本や漫画がたくさんあることなど教えていただきました。また、それぞれの研修室に色の名前がついていて、その色の床やカーテンが設置してあることも教えていただきました。最後に、閉館時刻や利用料金等、色々な問題を出していただきました。

次のちゅピCOMでは、実際にアナウンスをする人、編集スタジオから画面を見ながら指示を出す人、その指示を聞いてアナウンサーに指示をする人に分かれて、体験させていただきました。アナウンサー役の人は将来の夢を語りました。最後には、全員分の動画を編集するところも見せていただきました。

最後の芸北民俗芸能保存伝承館では、新庄のはやし田や南条おどりの調べ学習をしていた時期でもあり、とても参考になりましたし、質問されたことに的確に答える児童の姿もありました。



【北広島町まちづくりセンター】



【ちゅピCOM】



【芸北民俗芸能保存伝承館】

3 児童の感想

○千代田地域づくりセンターの図書館には、子どももおとなも楽しめる本がたくさん置いてあってすごかったです。

○プロンプターに読み原こうが映って、それをアナウンサーは読んでいることを初めて知りました。

○重いカメラを肩にかついで、2時間もブレないように支えている体力にびっくりしました。

○アナウンサー役はとってもきんちょうしたけれど、すごく楽しかったです。

○「新庄のはやし田」や「南条おどり」のことが展示されていて、あらためて伝統を感じました。

4 活動を終えて

伝承館での学習の中で、自分たちが受け継いでいる「新庄のはやし田」や「南条おどり」についても展示してあり、児童は誇りに感じている様子でした。身近な施設でも、自分の生活との関わりや働いている人たちの工夫を知る機会がなかったので、とても勉強になりました。

5 年 生

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」



田舎暮らし体験



体験活動



つかみ取り体験



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔５年生〕実施要項 「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

- 場 所 芸北文化ホール、芸北オークガーデン、大暮養魚場、芸北地域民泊等
※芸北小：豊平地域民泊、そばうち体験、スポーツ体験等実施
- 〔芸北文化ホール〕
〒731-2323 広島県山県郡北広島町川小田 10075-54 TEL 0826-35-0070
- 〔芸北オークガーデン〕
〒731-2322 広島県山県郡北広島町細見 145-104 TEL 0826-35-1230
- 〔大暮養魚場〕
〒731-2204 広島県山県郡北広島町大暮 85-3 TEL 0826-38-0734

2 目的

- 自然の中での共同体験を通して、課題解決する力や協働する力を養う。
- 町内の自然を生かした体験活動や民泊等の地域の方とのふれあいをとおしてふるさとのよさを実感させる。

3 対象児童 小学校5年生 127名

	Aグループ		Bグループ		Cグループ	Dグループ		Eグループ	計
	6月20日～22日		6月27日～29日		7月11日～13日	9月5日～7日		9月12日～14日	
学校名 (割当)	A 豊平	B 本地	A 大朝	B 八重東	八重	A 新庄	B 壬生	芸北	
男子	12	7	6	7	19	3	11	5	70
女子	7	3	3	9	12	3	13	7	57
児童数	19	10	9	17	31	6	23	12	127
班・児童数	5班 29名		4班 26名		5班 31名	5班 29名		2班 12名	21班 127名

4 日程

- (1) 1日目「対面式」
各学校より芸北文化ホールへの集合（芸北小学校は豊平支所へ集合）
〔A：小1中1 B：小1中1 C：大1 D：小1中1 E：小1〕※小：小型バス、中：中型バス、大：大型バス
数字は台数
- A：豊平小 〔13:15〕＝中型バス（19＋先生）
本地小 〔13:00〕＝小型バス（10＋先生）
B：大朝小 〔13:10〕＝小型バス（9＋先生）
八重東小 〔13:00〕＝中型バス（17＋先生）
C：八重小 〔13:05〕＝大型バス（31＋先生）
D：新庄小 〔13:05〕＝小型バス（6＋先生）
壬生小 〔12:55〕＝中型バス（23＋先生）
E：芸北小 〔13:20〕＝小型バス（12＋先生）
※13時45分頃に会場に到着できるように、計画を立てる。

対面式・1日目の活動の流れ

(八重小学校・芸北小学校は学校間交流なし 14:00～対面式、14:30～受入家庭への移動とする)
各校 ～13:45 到着 各学校よりバスで対面式会場に到着後、ホール後方に荷物を置く。

13:45～14:00 準備・整列

14:00～14:50 学校間交流

14:50～15:00 準備・整列

15:00～15:30 対面式

①開会

②北広島町代表挨拶(役場支所長等)

③児童代表挨拶

④学校代表挨拶

⑤受け入れ家庭紹介～観光協会スタッフ紹介

⑥学校引率者紹介

⑦教育委員会職員紹介

⑧受入家庭とのお互いの自己紹介

⑨閉会

15:30～受入家庭への受け渡し

(2) 2日目「せどやま体験」(雨天の場合も変更なし)(芸北小学校をのぞく)

9:00～ 9:15 学校・スタッフ等関係者打合せ(せどやま体験について)

9:15～ 9:30 芸北オークガーデンに集合

児童到着後、各学校ごとに荷物を置く。

活動班ごとに整列後、学校ごとに健康観察(体温測定)をする。

全体への指導並びに安全指導・確認、並び順の確認をする。

前日にデジカメを渡しているグループからデジカメを回収する。

9:30～15:20 せどやま体験進行

【開会】

①開会②児童代表挨拶③学校代表挨拶④指導者より挨拶(スタッフ自己紹介含む)

【せどやまスタッフ進行】

⑤せどやま事業の紹介:資源・エネルギーについて⑥ボイラー、せどやま市場見学

⑦午前中の作業(様子を見て、適宜休憩)⑧昼食⑨午後の作業(様子を見て、適宜休憩)

⑩片付け

【閉会】

⑪児童代表挨拶⑫学校代表挨拶⑬指導者より挨拶⑭閉会

※参加に際して児童に持たせたい目的意識:「エネルギーや地球温暖化について学び、自分自身ができることを広げよう」

○閉会后、せどやま券配布し、芸北ドルチェで使用。

【重要】せどやま券使用については児童に伏せる)→受入家庭が来るまで待機する。

15:20～15:30 受け入れ家庭への受け渡し(芸北オークガーデン入り口駐車場)

受入家庭の迎えを待ち、来た順番に随時受け渡し実施

○雨天の場合のみ長靴を履いてくる。

芸北小学校

各家庭～10:15 受入家庭の自家用車でどんぐり村そば道場へ

10:15～10:30 児童到着後、活動班ごとに荷物を置く。

児童到着後随時、健康観察を実施。

(朝民泊家庭で体温測定をしていない児童へは体温測定を実施)

10:30～13:25 そばうち体験進行(体験時間約1.5時間(昼食時間除く))

①開会②児童代表挨拶③学校代表挨拶④指導者より挨拶

⑤そばうち体験⑥昼食⑦片付け⑧児童代表挨拶⑨学校代表挨拶⑩指導者より挨拶⑪閉会

13:25～13:30 移動(徒歩で豊平総合運動公園へ)

13:30～15:30 スポーツ体験(体験時間約2時間)

①開会②児童代表挨拶③学校代表挨拶④指導者より挨拶⑤スポーツ体験⑥片付け

⑦児童代表挨拶⑧学校代表挨拶⑨指導者より挨拶⑩閉会

15:30～15:35 整列(持ち物の確認をする)

15:35～ 受け入れ家庭への受け渡し(豊平総合運動公園)

受入家庭の迎えを待ち、来た順番に随時受け渡し実施

(4) 3日目「川魚つかみ取り(釣り)体験」

各家庭 ～8:45 芸北文化ホールに集合

児童到着後、ホール後方に荷物を置く。

前日にデジカメを渡しているグループからデジカメを回収する。

8:40～ 9:00 準備・整列(民泊家庭ごと)

9:00～ 9:30 お別れ式

① 児童代表挨拶

② 学校代表挨拶

③ 北広島町代表挨拶(役場支所長等)

④ 閉会

※お別れ式閉会后、写真撮影を行う。(全体集合写真→各学校毎→民泊家庭毎)

※受け入れ家庭との個別の挨拶は各自で行う。

※写真撮影の指示は町教育委員会が行う。

9:30～9:45 バスに乗って大暮養魚場へ移動

9:45～10:00 到着、整列

※バスで大暮養魚場に到着後、活動班ごとに整列。

※児童の準備物はしおりを参照

10:00～13:20 川魚つかみ取り体験進行

【開会】

①開会②児童代表挨拶③学校代表挨拶④指導者より挨拶

【大暮養魚場スタッフ進行】

⑤養殖の説明・施設見学⑥炭おこし⑦つかみ取り【1人2匹】

⑧アマゴ調理(割箸を使ってはらわたを出す)

※調理中に気分が悪くなる可能性があるので、事前に体験内容の説明をしてもらう

⑨炭火で焼く⑩昼食(アマゴ2匹、おにぎり、味噌汁)⑪片付け

【閉会】

⑫児童代表挨拶⑬学校代表挨拶⑭指導者より挨拶⑮閉会

※活動班に分かれて活動する。

※魚を焼く囲炉裏は、各班で1つ使用。(最大12人程度座れる広さあり)

※雨天の場合は、屋根がついているところを利用

○体験時間に余裕があるので、児童主体で進めていくといい。(タイミングを見てスタッフがサポートする)

13:20～13:30 休憩・活動班ごとに整列

○持ち物の確認をすること。

13:30～ 各校へ出発 ～ 帰校

※バスで各学校に帰る。

芸北小学校

各家庭～8:45 豊平支所に集合 児童到着後、会議室後方に荷物を置く。

8:45～9:00 準備・整列(民泊家庭ごと)

9:00～9:20 お別れ式

9:30～9:50 バスに乗って大暮養魚場へ移動

9:50～10:00 到着、整列

10:00～13:20 川魚つかみ取り体験進行

13:20～13:30 休憩・整列(活動班ごと)

13:30～ 帰校

5 会場・準備物等

(1) 開会式・閉会式

【町教委】

・横看板「北広島ふるさと夢プロジェクト(小5)「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

(2) 活動(せどやま体験・川魚つかみ取り体験)

○当日までの準備・対応

<各学校>

・デジタルカメラ(各学校最低1個は持参)

・救護用品<簡易バッグ>

・探検バッグ(せどやま体験、川魚つかみ取り体験で児童がメモをする用)

＜観光協会＞

・スポーツドリンク配布（せどやま体験・スポーツ体験時）

○児童の持参物・服装

・ガムテープによく見えるように、学校名・名前を書き、胸前にはる。

・筆記用具 ・水筒・タオル・帽子・軍手・はきなれた靴

・カップや傘（状況に応じて前日に指示）

・敷物

・服装ー長袖・長ズボン（私服可）

（３）昼食

【観光協会】弁当

○２日目（せどやま体験）の昼食

○３日目（大暮養魚場）の昼食

（４）費用について

全体 24,736 円 個人 8,000 円 町 16,736 円

【重要】キャンセル時の費用負担について

キャンセル料について、民泊実施前日（11:00 まで）までに教育委員会へ連絡があれば、キャンセル料はかからない。ただし、民泊実施前日 11:00 を過ぎた場合、キャンセル料がかかり、個人負担額は 5,000 円になる。（せどやま体験分を除いた金額）

【共有】引率者（教職員）の食費、宿泊費について（注文された方のみ）

昼食代として、２日目せどやま体験時弁当 650 円、ジェラート 350 円、３日目大暮養魚場昼食 1,100 円がそれぞれかかる。宿泊費は実費。（後日学校ごとにまとめて請求）

※宿泊費は各学校毎に出張処理とする。

7 役割分担及び安全管理・安全指導（計画策定委員会を中心に企画・準備）

○感染防止・安全対策ガイドライン（民泊用）を参考に、活動を行う際は、感染対策を十分に行うこと。

○外部関係機関との渉外（町教育委員会＜夢プロ係＞）

○教育委員会届出（各学校） ○保護者通知（豊平小→各学校） ○会計（町教育委員会）

○体験活動のしおり（豊平小→各学校）

○割当に関して

◆対面会進行＜各グループで割当＞ ◆対面式校長代表挨拶＜各グループで割当＞

◆お別れ式挨拶・謝辞＜各グループで割当＞ ◆児童代表挨拶（閉会）＜各グループで割当＞

○報告書製作（教育委員会・豊平小）

◆プロジェクトのねらい

◆活動の内容・様子ー写真入り、A4 で 3 枚程度にまとめる。

◆記録用写真撮影＜各学校＞

◆作文＜各学校 1 人ー400 字原稿用紙で 2 枚程度＞

学校ごとに指導して製作し、データを教育委員会へ送付

◆活動の様子、作文は、1 月 12 日までに製作してデータを送付

◆夢プロだより（民泊）は豊平小担当・・・12 月配布予定

○安全についての指導（各校で事前学習を行う）

・交通安全・生活安全（動物・植物等について、熱中症等）・災害安全（大雨・雷・洪水）

○民泊についての総括（豊平小）

8 今後の予定（課題事項）

○配慮を要する児童（持病・アレルギー・人間関係その他）の連携方法は：各校⇒受入家庭
自己紹介カード、健康カード、アレルギーアンケート等を使用

○参加費の徴収について・・・実施後に町教育委員会より各校へ請求

9 その他

提出する書類・事前学習や確認に活用する資料

【学校提出書類】

体験申込書・高速バス配車手配表・食事手配希望表・引率教員部屋割・民泊割り当て表・受入家庭あて書類送付用リスト・体験の班分け・緊急時関係者連絡網・体験活動のしおり（児童用・指導者用各 1 部提出）・受入家庭プラカード・

【学校で製作・活用】提出書類チェック表・持ち物チェック表

児童・保護者の準備物 ※出発時の服装については、各学校で協議する。

〔服装〕：長袖体操服（上下）、体操服か T シャツ（半袖・上）、赤白帽、はき慣れた運動靴

〔持ち物〕※その他、必要なものがあれば、各校で加える。

服装・着替え（基本）	日用品	その他
体操服（長袖2セット：1セットは当日着用）	洗面用具（歯ブラシ・歯磨き粉）	カバン（多くの荷物が収納出来る大きめのもの）
帽子（赤白帽）	ハンカチ・ティッシュ（3日分）	ナップサックまたはリュックサック（水筒が入るサイズ）
靴下（4日分）	タオル（5～6枚）	虫除けスプレー・ジェル
運動靴（履き慣れたもの）	ビニール袋必要枚数（着替え入れ・ごみ袋として）	【※体に合うものを十分に用意】
上着類（1日分：3日目に使用）長袖・長ズボン（くるぶしまで隠れるもの）		虫さされ薬【※体に合うものを十分に用意】
下着類（2日分）シャツ・パンツ	【田舎暮らし体験・川魚つかみ取り体験用】軍手（滑り止めの木綿製）3セット	熊よけ鈴
【川魚つかみ取り体験用】 半袖体操服かTシャツ・半ズボン	カップ・傘	水筒（ペットボトル不可）
		【田舎暮らし体験で使用】 エプロン・三角巾
【川魚つかみ取り体験用】 濡れてもよい運動靴かシューズ（サンダルは不可）		体験活動のしおり
		筆記用具
【民泊先での農業体験等で使用】長靴		常備薬（必要に応じて）
寝間着（ジャージ・パジャマ）		
体操服（長袖2セット：1セットは当日着用）		

※全ての持ち物に名前を書く。（袋にも名前を書いておくこと）

10 ご協力をお願い

【報告書・夢プロ便り製作】

○報告書

◆次の内容の報告書を製作

【内容】プロジェクトのねらい、実施計画

活動の内容・様子 ＜写真入りで、概要をまとめる＞

児童の作文＜各学校1人ー400字原稿用紙で2枚程度＞

実施後のアンケート結果（児童）

○夢プロ便り

◆実施後に、夢プロ便りを製作する。フォーマットは令和4年度のものを使用

【事後指導】

○民泊家庭に対し、事後学習の際に、手紙や色紙等でお礼を言える機会の検討

【アンケート（児童・保護者）】

◆実施後に、ねらいの達成度や児童の思いを把握したりするためのアンケートを実施

・ふるさと夢プロジェクト事業児童及び保護者アンケート（GoogleForm）※事前に学校に共有

11 その他

○プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させる。

○保護者案内は、提出日を目安に学校ごとに製作して配布する。

○特別な支援を必要とする児童、健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、教育委員会とも連携を取りながら引率職員体制について配慮する。学校側で必要があると判断した場合、児童提出書類提出時に早めに共有を行う。

感染防止・安全対策ガイドライン（民泊用）

【児童・先生】

- ①発熱・咳・寒気・悪寒・筋肉痛・頭痛・のどの痛み・味覚または嗅覚の異常等の感染症状を旅行実施前と旅行実施当日および民泊前日に確認してください。
- ②家庭到着後に症状が現れた場合、その時点で民泊家庭から離れて医療機関にて診断を受けてください。
- ③児童には①の条件を徹底し、併せて確認してください。
- ④滞在中の民泊家庭から（手洗い・うがい・社会的距離・マスク着用・その他）感染防止に対する指示があったときは、指示に従う事を事前に指導してください。
- ⑤児童・児童と受け入れ家庭の双方の命に関わることであり、虚偽の申告が絶対無いよう事前指導を徹底してください。
- ⑥事後確認として体験活動終了後3日以内に当該児童が新型コロナウイルス感染症陽性になった場合は、北広島町教育委員会に連絡してください。

【（参考）受け入れ家庭 感染防止対策内容】

- ①手洗い用のブッシュ式洗剤、除菌用アルコール消毒液の用意
- ②フェイスタオルの人数分用意（滞在中個人管理とする）
- ③体温計を常備する。
- ④家族の健康状態を随時確認する。

【感染予防で気をつけること】

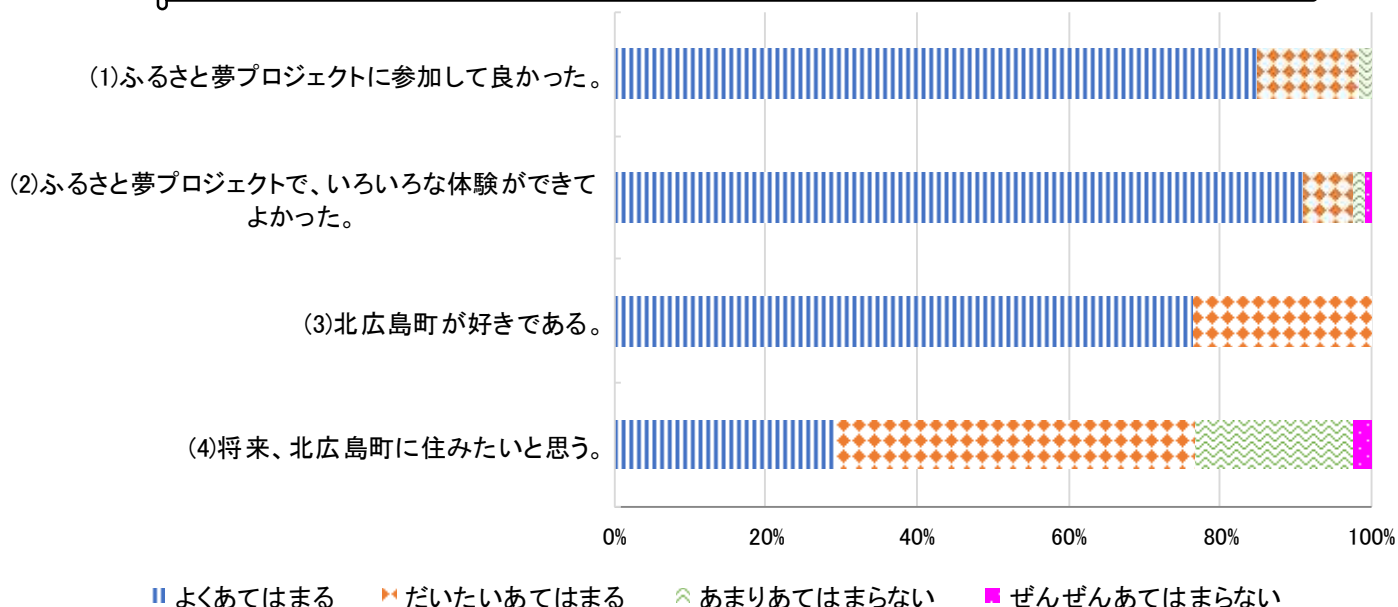
- ①洗面や手洗いの場所を定めておく。
- ②寝具については、使用前後に天日干しや布団乾燥機を利用し清潔にしておく。
- ③客間も使用前後に掃除機後に雑巾や畳拭き用ウェットシートにて拭き取ること。
- ④部屋の換気を必要に応じ適宜行うこと。（特に回数は求めない）
- ⑤食事の際、鍋料理・大皿盛り等のメニューにする場合は、自分の箸で大皿から取らず箸等の取り分け用のものを使用すること。テーブル上のパーテーションは各家庭が必要とした場合は使用する。

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」の活動の様子

活動内容	活動の様子
【Aグループ】（豊平小・本地小）6月20日～6月22日 「せどやま体験」 せどやま体験では、丸太を切り出し、薪にしていきました。豊平小の人と一緒に活動しました。初めは緊張していた子供たちも一緒に薪を切るうちに声を掛け合い、協力して薪を作ることができました。 初めて一人で切り終えた丸太は、達成感でいっぱいでした。働いて手に入れた「せどやま券」で活動後に食べたジェラートは格別でした。 「川魚つかみ取り体験」 前日までの雨もあがった3日目。大暮養魚場でアマゴのつかみ取り体験等を行いました。アマゴを捕まえた時の喜び、大切な命をいただいているという感謝の心、友達と声をかけあい協力することの大切さなどを学ぶことができました。	    
【Bグループ】（大朝小・八重東小）6月27日～6月29日 「民泊体験」 民泊先では農作業体験や山登りなどを体験させていただきました。料理のコツを聞きながら一緒に作ったご飯はとてもおいしく、忘れられない時間となりました。 「せどやま体験」 せどやま体験では、協力して木を切るとともに、せどやま事業について紙芝居で学びました。せどやま事業は空気中の二酸化炭素を減らし、山をきれいにしていることを学びました。 「川魚つかみ取り体験」 大暮養魚場では、施設の見学や火起こし体験、アマゴのつかみ取りにチャレンジしました。大朝小と八重東小の友達で協力して火起こしの作戦を立てたり、アマゴの調理に取り組んだりすることで、チームワークの大切さや感謝して命をいただくことの大切さを学びました。 みんなで協力して火を起こし、調理をして食べた魚はとても美味しかったです。これからいただく命にも感謝をして食べたいです。	      

活動内容	活動の様子
【Cグループ】（八重小）7月11日～7月13日 「民泊体験」 民泊家庭では、野菜の収穫や牛のえさやり、夕食作り、木工細工体験などを通して北広島町のよさ、家族の温かさを感じました。お別れはとても寂しく、「また会いたいです。」と別れを惜しんでいました。 「せどやま体験」 子どもたちは、重い丸太を運んだり、丸太を薪にしたりしました。大変な作業でしたが、どの子も一生懸命がんばりました。労働の後のジェラートは最高でした！ 「川魚つかみ取り体験」 炭おこしには大苦戦。しかし、どの班も火おこしができました。また「命をいただく」というお話も聞きました。自分たちで捕まえたアマゴの塩焼きは最高の味でした！	     
【Dグループ】（新庄小・壬生小）9月5日～9月7日 「せどやま体験」 丸太を切る時には、壬生小学校、新庄小学校の児童がお互いに助け合い、しっかり協力している姿がたくさん見られました。大変な作業と一緒に経験することで、学校が違ってすぐに打ち解け、仲良く楽しむことができました。「もっと一緒に過ごしたい。」と、別れを残念がる児童もいました。 「川魚釣り体験」 魚を焼くための火をおこすことも体験しました。ほとんどのグループが「とりあえずやってみよう。」という感じでどんどんマッチを消費していましたが、なかなか火がつかず苦労していました。少し前まで生きていた魚を食べるという経験を通して、命のありがたさを感じることができました。	     
【Eグループ】（芸北小）9月12日～9月14日 「そばうち体験」 そば打ち体験をしました。そば粉からそばになるまで1時間半以上かかりましたが、自分達で打ったそばは絶品でした。 「スポーツ体験」 ソフトテニス体験をしました。初めは上手くできるか不安でしたが、どんぐり北広島ソフトテニスクラブの方々に丁寧にご指導していただいたおかげで、最後には試合をすることができました。 「川魚釣り体験」 命をいただくということのありがたさを感じながら、アマゴを美味しくいただきました。	     

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（5年）



民泊体験・田舎暮らし体験をして、思ったこと考えたことを書いてください（抜粋）

芸北小学校

○自然は大切だと思いました。
 ○楽しかった。家族でまた行ってみたい。
 ○芸北は、のどかで緑色がきれいだなと思いました。
 ○考えたことは、もっと北広島町のことをもっと知りたいです。
 ○昔の家は木がたくさん使われてるから、木が山に残ってないんじゃないのかと思った。
 ○違う家族というだけでこんなに暮らし方が違うんだなと思いました。
 ○いろいろなことが学べると思いました。

○豊平には、豊かな自然があると思いました。もう一つ芸北よりも涼しいなと思いました。
 ○田舎は、田んぼをしているのが多いことを知りました。
 ○田舎暮らし体験をして都会の方はどうなのか気になります。
 ○自分の家ではできないことや田舎暮らし体験しかない事ができたから。
 ○色々な事をして楽しかったし、いい経験ができて良かったと思いました。

大朝小学校

○仲間と協力してやると、やり遂げることができるのがわかった。
 ○みんなと協力をすることができてよかった。
 ○大朝よりも山があった。
 ○楽しい自然のことを勉強したできた。
 ○「宮本さん宅にはピザ窯があるんだー。」と思いました。
 ○小川さんの畑の手伝いをし終わったあとに小川さんが「みんなありがとー一人じゃできなかったよ」というてくれたことです。

○田舎暮らし体験をとうして、きゅうり畑にしちゅうを刺すのに力いっぱい刺すのが大変だったけど楽しかったです。
 ○あまり畑仕事をしていなかったけど、民泊を通して畑仕事が大変だったことがわかったから家でも出来る事をしようと思った。
 ○田舎暮らし体験をして、初めてすること知り、覚えることもあり楽しかったです
 ○カレーの作り方が、自分の家とちがってびっくりしました。

新庄小学校

○日頃、体験できないことが多くて楽しかったです。
 ○ピザを粉から作ったことです。
 ○僕たちの身近なところがないものが見れてよかった。
 ○貴重な体験をしたと思います。

○北広島町の自然が豊かだから直接自然に関わった民泊体験ができたんだと思います。
 ○他の地域や町だったら自然を生かした民泊体験はできないと思いました。

○せどやま体験で、木を切るのが楽しかったです。	○改めて、北広島町は自然が豊かなことがわかりました。 ○楽しかったです。
八重小学校	
○みんなが明るく接してくれた。 ○自然と触れ合えて嬉しかったです。 ○民泊は楽しい。田舎もいいところ。 ○温泉に連れて行ってくれたこと。 ○民泊で夜、鍋を食べました。 ○田舎の人が優しくていいなと思った。 ○手伝いをして喜ばれて自分も嬉しかったです。 ○一日目はニンニクや玉ねぎをぬかせていただいたことが嬉しかったです。二日目は木を40cmに切ってまき割機で40cmの木を割ったことが嬉しかったです。 ○いのししのおりを見せてもらってすごいはくりよくでかっよかった。 ○自然と触れ合えてよかったです。 ○じゃがいもを収穫した。 ○自分の家も田舎だけど田舎でも違いがあることを知りました。 ○料理やじゃがいも掘り、雑草集めなどを頑張っていたら温泉、ゲームなど色々な楽しいことができるということを知りました。 ○畑の肥料を作るのも大変でした。 ○田舎は3日前よりステキだなーと思いました。 ○自分がある北広島町はこんなステキなところがあるんだ、すごいと思いました。	○考えて行動して自立して動くをずっと考えながら活動できました。 ○普段できない体験ができて嬉しかった。 ○自然を感じてすごく楽しかった。 ○芸北と千代田ではちがいがたくさんあった。 ○川魚つかみ取り体験では、命の大切さについてあらためて考えました。 ○家の中にアメジストがすごかったです。 ○アマゴに塩をふってアマゴを食べるだけでサイコーでした。 ○自然と触れ合えてよかった。 ○田舎暮らし体験で玉ねぎやにんにくの収穫はなかなか家ではできないので楽しかったです。夕食作りで受け入れ家庭の方にご飯の作り方を教えてもらい作ったものはとても美味しかったです。 ○芸北のいいところを知り、体験し、楽しかったです。 ○田舎だなーと思った。 ○色々な工夫や楽しさや初めてなことが知れると思った。 ○民泊体験では料理やいろいろしました。 ○民泊体験や田舎暮らし体験をして、私はとても楽しかったです。 ○特に楽しかったのは、ピザ作りやジャガイモ、きゅうりを取ることが楽しかったです。
八重東小学校	
○命って大切だなと改めて思いました。 ○自然体験で気持ちがスッキリした。 ○せどやま体験をして諦めないことと協力することの大切さが分かった。 ○オークガーデンの風呂に入ったこと。 ○みんなと協力しながらやったら、大きな成功につながるということがわかった。 ○命をいただくことは、とてもありがたい感謝だと改めてわかりました。 ○民泊体験をして友達と協力することが大切だと思いました。 ○木を切るのは、大変だということをあらためて思いました。 ○芸北の地域の人達は、皆さん優しかった。	○自然を感じられてよかった。 ○協力することが大切だと感じられた。 ○北広島町にはこのようなすてきなことがあることをいろいろな人に伝えたいと思った。 ○やっぱり協力するのは改めて大事だと思った。 ○みんなと協力すると成功したのでこれからも協力していきたいです。 ○協力をしたらコミュニケーションを身につけることができました。 ○民泊体験をしてみて、友達との関わりや全力ですることととってもいい体験ができた。 ○民泊体験をしてまた行きたくなるような体験をさせていただいたのでいつかまたいきたいです。 ○民泊で止まった家は ボールなげをさせてくれました。

壬生小学校	
○北広島町は自然がいっぱいきれい。 ○乾電池でビリビリするものがあるということ ○色々な人と交流できて良かったなということ。 ○とてもたのしかった。 ○手伝いをしたら気持ちがいいと思った。 ○大変なこともあったけど楽しかったです。 ○他人の人の家に泊まるという貴重な体験ができてよかった。 ○知らない人の家だけど、ルールを守って生活できてよかった。 ○都会より田舎のほうが人が少ないし空気がきれいで過ごしやすかった。 ○民泊家庭で色々なことができて楽しかった。 ○民泊は家族と離れるから不安だったけど民泊家庭の方々が家族と思えるほど優しくとても接しやすかったです。 ○人の家に泊めさせてもらうから迷惑にならないように気をつけて自分の家じゃないからダラダラせずにお手伝いをして過ごすことは、親になった気持ちになりました。 ○みんなで料理を作ったのが少し大変だったです。	○民泊体験をして、楽しかったし、協働する力がついたと思います。 ○今までしたことがないことをしたので楽しかったです。 ○なかなか家でできないことをできたから将来に役立つと思った。 ○北広島町は色々な活動を行われているんだなと思いました。 ○家族の家にしか泊まったことがなかったから緊張したけど、受け入れ家庭の方々が親切にしてくれてとても楽しかった。 ○民泊をしているいろんなこと、どんなことをしているかがわかってよかったです。 ○命に感謝していただくこと。 ○人の家に泊まるということはとても大変だなと思ったこと。 ○つかみ取りが楽しかった。 ○木でサイコロやコップ置や箸置を作ったのが楽しかったです。 ○せど山体験で木を切るのが大変でした。 ○アマゴのつかみどりがたのしかったです。
本地小学校	
○魚をつかめたこと。 ○木を切るのが大変だった。 ○千代田にはせど山体験がなかった。 ○豊平小学校の人たちと色々なことをして、とても仲良くなれたので楽しかったです。 ○いろいろな人と梅を取ったときには協力できて、仲良くなれてうれしかったです。 ○玉ねぎを取ったりご飯を作ったりしたこと。 ○梅を取ったときには協力して仲良くなれてよかったと思いました。	○田舎暮らし体験で、吉川さんの家に泊まったけどちょっときんちょうしていて、あまりできなさそうだったけど、4人もいるから大丈夫でしょと思って、自分で進んで箸置きやサイコロを作ったり、料理を4人で一緒に作ったりしました。本当に今までにはない経験を手に入れたと思います。 ○寝るとき、お母さんがいなくて心配でしたがみんなとゆっくり寝るから大丈夫と思って寝ました。 ○小学生で民泊は最後だけまたいつかどこかの家に泊まりたいなと思いました。 ○田舎暮らしはいいなと思った。
豊平小学校	
○同じ田舎でも、色々違うことがあって面白かった。 ○田舎暮らしは大変なんだなと思いました。 ○色々な人とふれあえて楽しかった。 ○自然の命は大切なことがわかった。 ○畑仕事が大変で、よくこれができるなと尊敬しました。 ○こんなに自然があるのがわかりました。	○初めてなことが多かったけど色んな体験ができて楽しかった。 ○他の人の家に泊まることが初だった。 ○違う家で寝泊まりするのは、あまりなれなかったけど、田舎暮らしは、いろいろな体験ができたから楽しかったです。

○料理や薪割りなどがとても楽しく、いい体験や思い出になれたと思いました。 ○田舎には、まだ気づいていない、いいところがあった。 ○友達とご飯を作って食べたり寝たりするのがとても普段味わえない体験をして、北広島町のことがわかった。 ○民泊家庭は子供を見たりするのが大変だったと思いました。 ○やったことがないことをしたりして楽しかったです。	○民泊体験をする前は田舎の良さが分からなかったけど、したあとは良さが少しわかった感じがした。 ○林みたいなどころでしか生きられない蝶々がいるのを初めて知って自然はすごく大切なのがよくわかったし、魚などは、命をもらって食べているのがありがたいなと思いました。 ○田舎暮らし体験では、違う人の家でこんな事ができるんだなと思いました。
--	---

体験活動（川魚つかみ取り体験・せどやま体験・そばうち体験・スポーツ体験等）をして、心に残っていることはどんなことですか（抜粋）	
芸北小学校	
○スポーツ体験です。プロの方に教わるのがあまりなかったからです。 ○アマゴの内蔵を取り出すことです。 ○そば打ち体験でそばを打ったり食べたりするのが心に残りました。 ○つかみ取り体験では、芸北にしかないレモンサーモンを見学できたり、精子が出るところを見たりしたところです。そば打ち体験は、家でそばを作ったときはブチブチ切れたけど本を見ながら作りたいです。スポーツ体験は、もっとテニスをしてもっとうまくなりたいなと思いました。	○そば打ち体験のそばを切るのとそばをこねることが心に残りました。 ○スポーツ体験と川魚つかみ取り体験とそば打ち体験が心に残りました。 ○スポーツ体験での試合や川魚つかみ取り体験で魚を取ったり、焼いたり、した事とそばうち体験が心に残りました。 ○そば打ち体験で、おまんじゅうのようなものを作ってくれたことが心に残りました。 ○川魚つかみ取り体験でアマゴの内臓を取ったこと。
大朝小学校	
○魚つかみ取りなどをしたことがなかったけどやってみるとできたので嬉しかった。 ○炭起こし体験でみんなと協力をしたから火を起こすことができた。 ○心に残っていることは、せどやま体験の木を切ったことです。その理由はとても体力を使ったからです。 ○せどやま体験で、木を切るのがむずかしかったけどいしかわくんたちが助けてくれたことです。 ○せどやま体験で、最初は木を切って売るだけと思っていたけど、木を切って森をきれいにしていたと分かりました。	○せどやま体験で木を切るのが大変だったけどみんなで協力したので少し簡単になったことです。 ○川魚つかみ取り体験で火起こしをしました。なかなか火をおこすのが難しかったけど、何とか活動班で一生懸命やったので小さい火をつけたことです。 ○掴み取り体験の時魚をみんな追い込んで魚を取ったことが心に残ったことです（協力して捕まえた）。 ○体験活動で大変なこともいっぱいあったけど協力したのでうまくいきました。
新庄小学校	
○せどやま体験で初めて丸太みたいなものを切れたこと。 ○アマゴのつかみ取りで魚がヌルヌルして全然つかめなかったことです。 ○せどやま体験で分厚い丸太を切り終わったあとに達成感があったこと。	○川魚を取るのが、心に残っています。 ○つかみ取りでは、ヌルヌルしていて取りにくかったけどみんなで1から準備したので達成感がありました。 ○せどやま体験は、太い木をたくさん切って手が痛くなかったけど良い体験になりました。 ○いろいろな人と協力した。

八重小学校	
○川魚つかみ取り体験で頭までおいしかったこと。 ○少し恐かった。 ○命を大切にすること。 ○アマゴを手で取るときに滑って取りにくかったです。 その次に箸で内蔵を取ることがわかりました。 ○大暮養魚場でアマゴをはしでぐるぐるまぜてやるこつ のことが心に残った。 ○川魚つかみ取り体験の時、魚がなかなか取れなかった。 ○みんなたくさん苦労していて、そんななか自分たちを 支えてくださったので、体験したことを心に残したい です。 ○川魚つかみ取り体験では命を頂くというものを知りま した。せど山体験は森を大切にするなど地球に優しい ことをする取り組みがあるのだと知りました。 ○魚の内蔵を取るときです。 ○川魚つかみ取り体験をして自分たちが捕まえた「アマ ゴ」を食べているんだなと思ったことが心に残りまし た。 ○木は、人間にとってかせないものなんだなというこ とが心に残りました。	○せどやま体験では3つ大切なことがあることがわかり ました。 ○川魚つかみ取り体験では魚の動きが早すぎて捕まえる のが難しかったです。 ○せどやま体験では、人が山を整備しないと山が暗くな り、熊が入りやすくなることがわかりました。 ○せどやま体験が楽しかったです。 ○川魚つかみ取り体験・せどやま体験です！ ○少し恐かった。 ○川魚つかみ取り体験では、逃げ足が早くて捕まえるの が大変だったけど、班の人と協力してやると取れまし た。せどやま体験では、森の大切さをよく知ることが できました。 ○せどやま体験で木を切ったこと。 ○命は大切と言う事と、自然には色々なつながりがある ことです。 ○せどやま体験で、機械を使って木を切ったことです。 ○せどやま体験で自然の大切さを学びました。
八重東小学校	
○川魚つかみ取り体験で頭までおいしかったこと。 ○つかみ取りが楽しかった。 ○みんなで炭焼きしたりせどやま体験で最後の最後に気 が切れたことが心に残りました。 ○せどやま体験でグループで木を切ったこと。 ○大暮養魚場で川魚つかみ取り体験をしたこと。 ○川魚のつかみ取りをみんなでやったこと。 ○せどやまたいけんで色々なお話を聞けてよかった。民 泊家庭の人とも楽しく過ごせてよかった。 ○民泊家庭での体験です。理由は、掃除の仕方や料理の 作り方など学べることができたからです。 ○せどやま体験をしてみんなと協力して木を切ったこと です。	○川魚つかみ取り体験で命の大切さがわかりました。命 を大切にしたいです。 ○魚つかみで最初は怖かったけど楽しくできた。 ○どの体験も協力することの大切さを感じた。 ○川魚のつかみ取りで炭で火を起こして魚を食べたのが 楽しかった。 ○川魚つかみ取り体験で、炭で火を起こしたことです。 ○せどやま体験で協力して木を切ったりまきにしたのが 心に残りました。 ○魚のつかみ取りで、魚を焼くため火を起こしたりする 体験ができて楽しかったです。 ○木を切ったことです、川魚つかみ取り体験をして命の 大切さを覚えました。
壬生小学校	
○みんなで協力して16匹取ったこと。 ○みんなと協力したり助け合ったりしたこと。 ○新庄小学校と一緒に協力してできてうれしかった。 ○みんなと協力したことが心に残った。 ○つかみ取りは魚を触るのが嫌だったけど頑張りました。	○みんなで協力して、火をおこしたり、魚をつかまえた りしたこと。 ○魚のつかみ取りや魚の内臓を取っているとき、命の大 切さがわかったこと。 ○丸太切りですごく疲れたけど、頑張ってやったからす ごく心に残った。

○せどやま体験は疲れたけど楽しかったです。 ○木をのこぎりで切ったり、魚の内臓を取り出したり、初めてやるようなことだらけで楽しかった ○芸北には、いろいろな体験などがあって楽しかったです。 ○川魚のつかみ取りで可愛そうだけど僕たちみんなが生きていくために魚を殺して命を頂いてるんだなと思いました。 ○せどやま体験で、木をものすごくたくさん切れて、最後に食べたドルチェが最高だった。 ○川魚つかみ取り体験の児童代表あいさつで言えるか不安だったけど、しっかり最後まで言えて嬉しかったことがとても心に残った ○アマゴを捕まえて内蔵を取って焼いて食べたときは「命に感謝しないといけないな。」と思いました。	○校長先生がつかんだ魚をカメラで撮ろうとしてくださったのに魚を落としたことです。 ○川魚のつかみ取りで最初は16匹くらい余裕で取れるかと思っていたけど全然取れなくて難しかったけど、後半からいっぱい取れてきてとても楽しかった。 ○木を切るのは初めてなのでとても大変でした。でも、木を切るのはみんなと協力してやったので、楽しかったです。 ○せどやま体験で木を切るときに大変だったけど、頑張ってたこと。 ○せどやま体験でみんなと協力し、まきのことをスタッフさん（せどやまさん）に芸北の妖精の話を聞いたこと。 ○川魚つかみ取り体験では、魚をつかんで食べておいしかったです。せどやま体験では、木をのこぎりで切るのがとても楽しかったです。 ○アマゴのつかみ取りでアマゴを4匹捕まえたのが嬉しいです。
本地小学校	
○せどやま体験の木を切ること。 ○たくさん取れて良かった。(魚) ○みんなで魚を食べることが心に残りました。 ○川魚つかみ取り体験をして、初めて会った人たちと協力したりしながら、川魚のつかみ取り体験ができたので、それが心に残りました。 ○魚のつかみどりで魚が早かったけどみんなで協力してできたのが心に残りました。 ○せどやま体験のとき、太い木を切った事。 ○魚のつかみどりで魚が早かったけどみんなで協力して仲良くなれてうれしかったです。	○大暮養魚場で見た芸北サーモンが美味しそうだったこと。 ○ぼくが一番楽しかったことは川魚つかみ取り体験です。つかみどり体験では、あまごのメスやオスのみわけかたやあまごはどこで暮らしているのかがとても気になり説明してくれる人をとてもしっかり見ました。説明してもらったあとにはあまごをじっさいに取ることと怖かったけどがんばってなんとか一匹できました。一番怖かったのはあまごの内蔵を取りぬくことです。「いやだ」「いやだ」と言って全然できなくて他の人にやってもらいましたけど怖くてもやって自分でできました。それを焼いてみんなで食べることがとてもうれしかったです。僕はそれが心に残りました。
豊平小学校	
○アマゴを捕まえたときが嬉しかった。 ○川魚つかみ取り体験でいっぱい取れて嬉しかった。川魚つかみ取り体験で、自分で調理して食べる魚は美味しかった。 ○魚の命は大切。 ○せどやま体験で木がないと動物たちが生きていけないかもしれないことがわかった。 ○川魚つかみ取り体験をやったら魚の命が大切なのがわかりました。	○川魚つかみ取り体験で初めてあまごを手で取ったから、こわかったです。 ○つかみ取りではじめて魚を捕まえたこと。 ○一生懸命魚も生きていることが良く心に残ったし、せどやま体験は、林みたいな木が離れて育っているところでしか生きられない蝶々や生き物がいるので、自然はすごく大事だと言うことがよくわかりました。 ○魚のつかみ取り体験です。理由は、魚のつかみ取りは初めてだったからです。

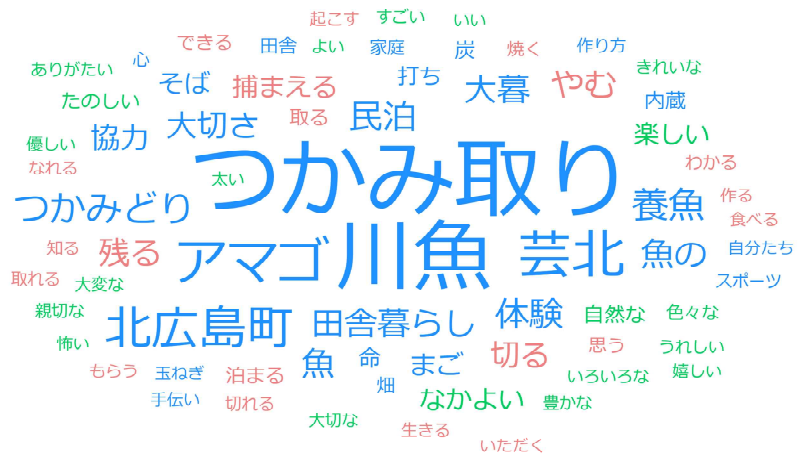
○川魚づかみが楽しかった。 ○川魚つかみ取り体験です。魚を捕まえたときにはうれしかったし、初めて知ったことが多かったからとても心に残りました。 ○川魚つかみ取り体験の火起こしです。 ○魚が取る時ヌメヌメしていた。 ○木を切るのが疲れた。	○せどやま体験をして心に残ったことは、木を切るときとても大変だったことと、川魚つかみ取り体験で思ったことは、命はとても大切にしないといけないことが心に残りました。 ○魚のつかみ取りのときに初めてでドキドキしたけど楽しかった。
---	--

児童のアンケートから

右の図は、民泊後に実施したアンケートで、児童が記載した感想をテキストマイニングしたワードクラウドと呼ばれる図となる。繰り返し出てきた単語が大きく表示される。

「川魚」「つかみ取り」「体験」など、体験についての感想がキーワードとして多く挙げられていた。

初めての環境で田舎暮らし体験を行い、その中でふるさと北広島町の良さを改めて感じる機会になった。



プロジェクトを終えての「児童作文」

よい思い出になった民泊

芸北小学校 林谷 若菜

私は民泊で、豊平の山下さんの家に泊まらせていただき、たくさんの体験をしました。

一日目は、みんな緊張してあまり話すことができなかったけど、山下さんがトランプと一緒にあそんでくれて、緊張が解けました。その後に、山下さんの家の四番目の娘さんに会いました。まだ九ヶ月ですごくかわいかったです。次に三番目の娘さんのあーちゃんを迎えに行きました。あーちゃんも緊張していました。迎えから帰ってきたら、みんなで夜ご飯のカレーの具材を切りました。その時、山下さんに「どういう感じで切ったらいいですか。」と聞くと、山下さんは「具材の切り方に正解はないから、自分がおいしいと思う切り方でいいよ。」と言ってくれました。その言葉のおかげで、楽しく切ることができました。切るのが終わると、一番目の娘さんのちいちゃんと二番目の娘さんのめいちゃんが帰ってきました。だから、みんなでカレーをいっぱい食べました。とてもおいしかったです。寝るときは緊張して全然寝ることができず、五度寝くらいしました。

二日目の朝は、おにぎりとお汁を食べました。その後、朝そうじで窓ふきをしました、次に、えんぴつキーホルダーを作りました。みんなと一緒に作ったので、気に入って、名札につけました。その後は、そば道場に行って、五年生のみんなとそばを打ちました。打っていると、粉だったそば粉がだんだん肉まんみたいな形になって、おもしろかったです。自分達で作ったそばは特別な味がして、すごくおいしかったです。昼からはテニスをしました。テニスは、あまり上手くできなかったけど、試合のときに私の打った球で点が入ると、「ナイス。」という声が聞こえたので、うれしかったです。

二日目の夜ご飯は、焼きそばをみんなで作りました。すごくおいしかったです。その後、トランプで大富ごう大会をしました。私は負けたけど、大会がすごく盛り上がったので、みんなのきずなが深まったと思います。寝るときに家に帰りたい気持ちが出てきて、涙が出てしまいました。すると、みんなも寂しくなって全員で泣きました。涙が止まらなくて山下さんのところに行くと、「その涙はわすれたらいけんよ。」と言ってくれました。すると、涙が止まりました。たくさん泣いてしまったけど、少し成長できた気がします。

三日目は大ぐれ養魚場に行きました。つかみ取りのことだけでなく、命をいただくということの大切さについても教えていただきました。つかみ取りでは、魚がぬるぬるすべって、全然取れませんでした。でも、アマゴもおにぎりも豚汁もとてもおいしかったです。

私は民泊を通して、いろいろな思い出を作ることができました。家族と離れて過ごす時間がとても寂しくて、涙が出てしまったこともあったけど、そこであきらめずに乗り越えることができたので、自己回復力がついたと思います。もう一回民泊に行きたいと思えるくらい、すてきな二泊三日を過ごすことができました。民泊に関わってくださったみなさんにお礼を言いたいです。ありがとうございました。

これから辛いことがあっても、民泊で成長したときの気持ちを忘れずに、日々がんばっていきます。

民泊を終えて

大朝小学校 齋藤 素直

僕は民泊で三つのことをがんばろうと思っていました。

一つ目はあいさつです。ぼくはあいさつが苦手で、初めての人に会うと固まってしまい

声が小さくなります。大きな声で相手の顔を見てあいさつすることをがんばりました。特に民泊先の宮本さんには大きな声であいさつができました。

二つ目は友達を増やすことです。八重東小学校の人と民泊へ行き、初めは「友達になれるかな」と心配していました。しかし、せどやま体験で木を切るときに、相談をしながら切ったことで話ができ、友達になることができました。

三つ目は食事作りです。作ったのはピザです。生地は自分たちでこねて作りました。初めはどろどろだったけど、こねていると少しずつまとまってきました。ゆびとめんぼうで丸くうすくのばしていくと、宮本さんに「すごい！」とほめてもらえてうれしかったです。その生地の上に好きなだけ具をのせて、チーズも山もりのせました。そのあと、ピザがまで焼いてもらって食べました。自分で作ったピザはかくべつにおいしかったです。

民泊は、初めてのことがばかりだったのでドキドキしましたが、いろいろ教えてもらいながらやってみたら、思ったとおりにできたのでうれしかったです。

たくさんの人たちにお世話になりました。ありがとうございました。

民泊体験活動での成長

新庄小学校 栗栖 泉

私は、民泊体験を通してコミュニケーション能力がついたと思います。

そう思った理由はいくつかあります。まず、一日目の交流会の時に壬生小学校の人と話すことができたからです。最初は話すのがすごく恥ずかしかったけど、「話さないといけいないな」と思って話しかけました。すると、すぐに話がはずんで、みんなと少し話せるようになりました。

民泊家庭の人との交流会では、とてもドキドキしたけど、民泊家庭の方がやさしく話しかけてくれたので安心しました。家に着いてからもいろいろな仕事をさせてくださり、生活面で大切なことも教えてくださり、学ぶことがたくさんありました。初日の夕食はぎょうぎを一緒に作りました。中に入れる春雨の量を調節するのが難しかったです。民泊家庭のサワコさんに話しかけるのも最初はためらってしまいましたが、すぐに仲良くなれました。

二日目の「せどやま体験」で壬生小学校の人とグループになって活動する時、最初はなかなか話しかけることができませんでした。しかし、新庄小学校の友達と一緒に声をかけるとすぐに仲良くなれました。他の人とはあまり話せませんでした。一人でも仲良くなれたのでよかったです。木を切るのは大変でしたが、みんなで交代しながら切りました。のこぎりをにぎっているだけで手が痛くなりました。木を押さえるときも力があるからずっと大変でした。でも、3本ぐらい切ることができたのでうれしかったです。

あまごのつかみどりの時には、石の下に手を入れるとつかまえることができました。内臓をとる時にぬるぬるしてうまくいかなかったけど、がんばって取りました。他の人にもコツを教えてあげました。火をつけるときもなかなかつかなくて大変でした。魚の上手な焼き方や養魚場のこと、魚の区別などを学ぶことができました。

気が付くとほとんどの壬生小学校の女の子と仲良くなれていました。民泊でコミュニケーション能力が高くなったからだと思います。うれしかったです。これからも、その力を生かしてたくさん友達をつくりたいです。

民泊の思い出

八重小学校 藤原 遥人

三日間の民泊体験を通して、楽しかったこと、思い出に残ったこと、自分が成長したと思うことがたくさんあります。

一日目。対面式では、とてもきんちょうしました。でも、受け入れ家庭の宮本さんは、家族のようにやさしく受け入れてくれました。とてもうれしかったです。宮本さんの家に着くと荷物を置いて、犬の散歩をしました。夜には、ピザを一から手作りしました。自分たちで作ったピザをみんなで食べると、とてもおいしかったです。

二日目。宮本さんの車で、せどやま市場へ行きました。せどやま市場のはたらきを聞いた後、切った木が集められているところへ行きました。作業を見学して、原木がまきになるまでの工程がよく分かりました。それから、実際に木を切ってみました。自分で切るのはとても難しかったです。働いてつかれたので、宮本さんの家に帰ると、少し眠たくなりました。夜はぎょうざを作りました。にんにくと肉をまぜたあんを皮に包んで焼きました。とてもおいしかったので、また食べたいです。最後の夜は少しさびしい気持ちになりました。

三日目。最後の日は、いつもより短いルートで散歩をしました。朝食を食べて荷物をまとめてから少し遊びました。そして、宮本さんの車で芸北文化ホールに行きました。お別れ式では、宮本さんとはなれるのがとてもさびしかったです。そのあと、バスに乗って大暮養魚場に行きました。アマゴのつかみ取り体験では、動きが速くて一ぴきしか取れませんでした。内臓を取るのがこわかったけど一ぴきはがんばって調理しました。焼いて食べると、身がほかほかでとてもおいしかったです。頭やしっぽ、ほねも食べました。

ぼくは、三日間の体験でいろいろなことを学び、成長した気がします。この経験を、これからの生活に生かしていきたいです。

ふるさとの魅力をたくさん感じた民泊

八重東小学校 芳田 彩花里

私は、民泊体験活動に参加して、北広島町には、こんなにもたくさんの魅力があるのかと感動しました。

私が特に魅力だと思ったことは3つあります。

一つ目は民泊家庭でのことです。民泊先では、畑仕事をがんばりました。作業をがんばっていると民泊家庭の方が「すごいね。」と言ってくださいました。作業は大変でしたが、がんばってよかったと思いました。民泊家庭の方に芸北で生活して楽しかったことをたずねると、「自然とふれあえることが楽しい。」と言っておられました。北広島町には、この民泊家庭の方のようにやさしい人が多く、自然がたくさんあることが魅力だと思いました。

二つ目は、せどやま体験でのことです。大きい木をたくさん運んでのこぎりで切ったり、ボイラーの見学をしたりしました。あせを流しながらみんなで木を切った後のアイスの味はわすれません。木を切ったり、燃やしたりすることは環境を守ることだと聞いて、私ももっと環境のことを考えながら生活していこうと思いました。環境にやさしい場所があることも魅力だと思いました。

三つ目は、大暮養魚場でのことです。大暮養魚場では、火起こし体験としせつ見学、あまごのつかみ取りをしました。思ったより魚が速くて一ぴきしかつかまえられなかったけ

どがんばりました。一生懸命につかまえて調理したあまごはとてもおいしかったです。どんな物を食べる時も命に感謝しようと思いました。ふだんできないような体験ができる場所があることも魅力だと感じました。

このようにたくさん北広島町の魅力を感じた民泊体験活動から学んだことは、何でも協力すると成功するということです。民泊家庭での生活やせどやま体験、魚のつかみ取りなどをふり返ってみると、どれも協力することで乗り越えることができたと思います。大朝小学校の五年生のみんなとも協力することができて本当によかったです。これからもみんなとたくさん協力して過ごしていきたいです。

やさしかった村竹さん

壬生小学校 竹村 雫

私は、今回の民泊体験まで知らない人の家に泊まったことがなかったので、とてもきんちょうしていました。でも、受け入れ家庭の村竹さん夫婦は、きんちょうしている私達をやさしくむかえてくださいました。

村竹さんの家で最初にしたことは夕食の準備です。その日の夕食は、ぎょうざとポテトサラダでした。私の家では、ぎょうざを作るときにはいつもカリッカリに焼いていたけど、その日作ったものは、皮がもちもちしていて中はジューシーで、とてもおいしかったです。

夕食を食べ終わった後には、人生ゲームやビンゴをみんなで遊びました。村竹さんは、いつもにこにこしながら私たちを見守ってくださいました。ねる頃には「知らない人の家に泊まる」というきんちょう感はありませんでした。

二日目の朝は、みんなで5時30分に起きて朝食の手伝いをしました。メニューはたまご焼きとごはん、みそ汁で、みんな大好きな和食でした。私も和食が大好きなので、いっぱい食べました。みんなで作った朝食は、とてもおいしかったです。村竹さんも喜んでくださったので、とてもうれしかったです。みんなでお手伝いをして良かったと思いました。

朝食の後には、せどやま体験の場所まで私たちを車で送ってくださり、終了後は迎えに来てくださいました。

二日目の夕食はカレーでした。お手伝いをするときに、玉ねぎを切りました。とても目にしみてつらかったけど、みんなでがんばっておいしいカレーができました。カレーのあとのビンゴも楽しかったです。私もビンゴになることができて、村竹さんから景品をいただきました。景品はあめでした。

三日目はついにお別れの日でした。朝食のサンドイッチをいっぱい食べた後、芸北文化ホールでお別れをしました。三日間私たちにやさしく接してくださり、料理のしかたを教えてくださいあったり遊んでくださったりした村竹さんとお別れするのは悲しかったです。でも、感謝の気持ちを伝えるために、みんなでたくさん話したり、遊んだりしました。村竹さんも笑顔だったので、気持ちが伝わったと思います。

この民泊で、村竹さんの家に泊めてもらって本当に良かったと思います。

民泊体験を終えて

本地小学校 溝上 岳斗

僕は民泊体験をして、「北広島のよさ」を感じました。

一日目に、民泊先の吉川さんの家でコースターやはし置きを作りました。木で作ったコースターにワックスをぬるのが難しかったです。吉川さんの家では、ふとんをしいてねました。初めてのしきぶとんでした。僕にとって初めてのしきぶとんは、気持ちがよかったです。

二日目は芸北オークガーデンでせどやま体験をしました。せどやまの「せど」とは、家のうらという意味で、山がついて「せどやま」というそうです。僕は、たくさん木を切ったりまきを作ったりしました。のこぎりを使ったので手がしびれました。一人で木を切り終えたときはとてもうれしかったです。その後、もらったせどやま券でチョコチップアイスを食べました。たくさん頑張った後のアイスはものすごくおいしかったです。

三日目は大暮養魚場に行きました。まずは火起こし体験をしました。火起こし体験では、マッチを使って新聞紙に火をつけて、それから杉の葉に火を移しました。班で協力して火をつけることができました。その後に川魚つかみ取り体験をし、アマゴをつかみ取りました。つかみ取ったアマゴは、わりばしでぐりっと内ぞうを取り、竹ぐしにさして焼きました。自分で内ぞうまで取ったアマゴはものすごくおいしかったです。命の大切さを感じました。

三日目のお別れ式のときに、吉川さんからお手紙と写真をもらいました。吉川さんはとてもやさしくて、民泊の間、とてもお世話になりました。お手紙と写真をもらえてうれしかったです。

この民泊をきっかけに学校生活をもっとがんばっていこうと思いました。

一生の思い出

豊平小学校 筒井 茜

ずっと前から楽しみにしていた民泊が終わりました。終わってみるとあっという間でしたが、楽しい思い出がたくさんできました。

一日目は、五時間目からだったので、学校ではずっとワクワクドキドキでした。学校を出発して、体育館で待っていると、本地小学校の五年生と出会い、きずなを深めるゲームをしました。たくさん友達ができました。

次は民泊でお世話になる谷本さんとの出会いでした。私は、たくさん楽しもうと思いました。家の近くに来た時に、牛が近くにいるからびっくりしました。夜ご飯は、一緒に料理を作りました。ごうかな夜ご飯で、とてもおいしかったです。夜には、花火やホタルを見ました。花火もホタルもキラキラ光っていて、今まで見たことのない美しい景色でした。一日目の夜は、一緒に泊まった友達とたくさん話をしました。

二日目の朝は、8時40分には家を出発したので、一番乗りでせどやま体験の会場に着きました。木を切ったり、紙芝居を見たりして、いろいろな体験をしました。木を切るのが大変だったけれど、班の友達と協力してがんばりました。

三日目の朝は、芸北文化ホールに移動して、お世話になった谷本さんにお礼を伝えました。自分の気持ちを言葉で伝えることができました。大暮養魚場に移動して、魚のつかみ取りや火起こし体験をしました。なかなか火がつかなくて大変でした。一人二ひきの魚をつかまえるのも大変でした。私たちの班が一番最後になってしまったけれど、協力して全

部で十二匹の魚をつかまえることができたので、うれしかったです。自分でつかまえた魚を自分で焼いて食べると、いつもよりおいしかったです。

民泊に行く前はドキドキしていて、不安もたくさんあったけれど、たくさんの思い出ができました。一生の思い出ができてうれしかったです。

6 年 生

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔6年〕実施計画

～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 1 日時 令和5年9月26日（火） 9：30～14：10
 2 場所 KumahiraPark 北広島（千代田運動公園（総合体育館 多目的広場）
 〒731-1515 広島県山県郡北広島町壬生 10500 TEL 0826-72-8822

3 目的

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
 ○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
 ○ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。
 ※上記の目的や日程・グループ等ついて、各校で事前指導を行っておく。
 ※今年度は有観客とする。

4 対象児童 小学校6年生（7月20日現在）

	芸北小	大朝小	新庄小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	7	7	6	18	7	13	7	10	75
女子	1	5	5	16	9	8	5	8	57
児童数計	8	12	11	34	16	21	12	18	132

◇養護教諭は八重小・本地小の2名が参加。（参考：R4 新庄小）但し、応急対応グッズは各校で持参する。

5 日程

- （1）各学校より会場への集合 ※バスは発車時間の10分前には到着予定で調整済
 町教育委員会がバス会社に予約済み、停車場所等については各学校で各バス会社と確認。

- ①芸北小〔8:30 発〕→KumahiraPark 北広島〔9:15 着〕
 ＜小型バスー総企バス＞（児童8名＋引率者）
 ②大朝小〔8:35 発〕→新庄小〔8:50 発〕→KumahiraPark 北広島〔9:15 着〕
 ＜大型バスー大朝交通＞（児童23名＋引率者）
 ③八重小〔9:00 発〕KumahiraPark 北広島〔9:15 着〕
 ＜大型バスー八重タクシー＞（児童34名＋引率者）
 ④豊平小〔8:35 発〕→本地小〔9:00 発〕→KumahiraPark 北広島〔9:15 着〕
 ＜大型バスー豊平交通＞（児童30名＋引率者）
 ⑤壬生小〔9:00 発〕KumahiraPark 北広島〔9:15 着〕
 ＜中型バスー八重タクシー＞（児童21名＋引率者）
 ⑥八重東小〔9:00 発〕→KumahiraPark 北広島〔9:15 着〕
 ＜中型バスー八重タクシー＞（児童16名＋引率者）

（2）全体会・活動の流れ

各学校よりバスで総合体育館に到着後、2階の観覧席に荷物を置いて1階のフロアに集合する。

※早く到着した学校は、できるだけ奥より詰めるようにする。

※講演会が見える側の観覧席は地域の方が座る為空けておくこと。（テープ等で区切っておく予定）

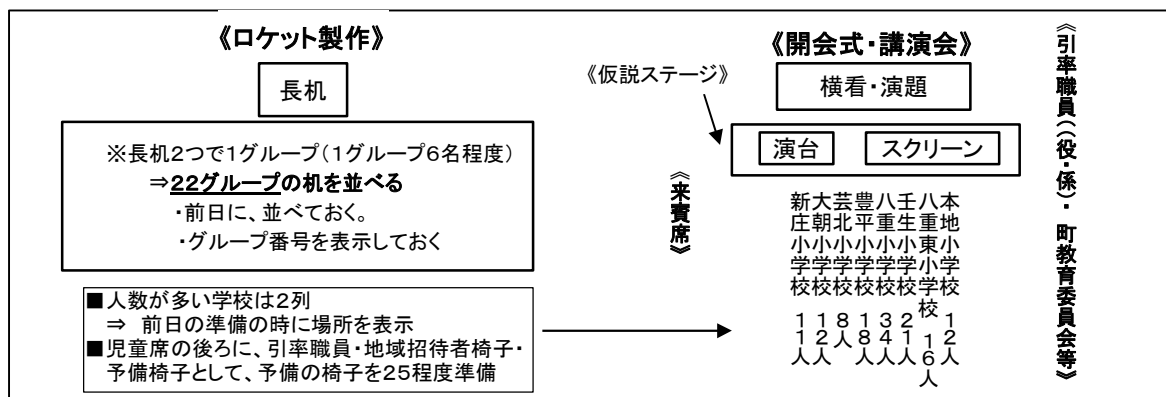
□持参した屋内シューズに履き替えて2階へ（くつはビニール袋等へ入れて持っておく）

□水筒（お茶）を持って1階に集合。講演会はメモなどを取らない。

◆開会行事（9：30～9：45）ー総合体育館（講演・ロケット作りも）

＜司会進行ー片桐教諭（大朝小）＞

児童の並び（開会式・講演会は椅子に座って）



【活動の流れ】

(1) 開会行事 (9:30～9:45)

- ①開会挨拶 (生涯学習課長補佐※応援隊副隊長挨拶代読) ※町教育委員会が連絡調整をする。
- ②校長代表挨拶 (担当校長代表 [大丸校長一新庄小]) ※講師紹介を含む
- ③来賓紹介 (司会進行) ⇒西部教育事務所芸北支所長、西部教育事務所芸北支所 学校経営相談員 増田教育委員、大谷教育委員

(来賓紹介はないが、当日はサポートとして社会教育委員も来られる予定)

(2) 講演会 (9:50～10:50) …株式会社植松電機の植松努代表取締役による講演会

- ・メモなどは取らずに、開会式の並びで講演を聞く。

(3) 休憩 (10:50～11:00) ※トイレ、水分補給等

(4) ロケット製作 (11:00～12:00)

- ・ロケット製作をする各学校のグループ机に移動し、指導を受けて製作 (グループ表示あり)。
- ・各グループのテーブルに手指消毒用アルコール等を置く。各学校で用意。児童の準備物はなし。
- ・教職員は、自分の学校の児童を中心に関わり、必要に応じて製作の支援をする。
- ・製作後、講師を囲んで記念写真—体育館の2階より撮影 (町教育委員会)
※昼食・休憩・移動—学校ごとにアリーナの2階で弁当を食べる。
- ・教職員 (各学校1名) は、早めに昼食を食べ、事前指導を受けて講師のロケット点検に協力する。

(5) ロケット打ち上げ (13:00～14:00) —多目的広場—

- ・マイクまたは拡声器は町教育委員会で準備をする。
- ・帰りのことを考え、荷物を持って指示される場所に集合する。
- ・関係職員は、安全に発射できるよう児童の指導や役割分担の仕事を行う。
- ・児童は4グループに分かれ、各グループで2列に分かれて打ち上げる。
< 1～6グループ (36名)、7～12グループ (36名)、13～17グループ (30名)、
18～22グループ (30名) >

(6) 閉会行事 (14:00～14:10) —多目的広場— ※学校ごとに集合し並び

- ①閉会挨拶・謝辞 (担当校長代表 [金原校長—大朝小])

- ②児童代表挨拶 [本地小学校]

<参考:過去の児童代表校>

R4 大朝小、R3 芸北小、R2 壬生小、R1 八重小、H30 新庄小、H29 新庄小、H28 豊平小、H27 八重東小

※株式会社植松電機 植松努代表取締役に最後に挨拶をしていただく (町教育委員会が事前に確認)

※閉会式後、各学校グループごとバスに乗り、14:30に千代田運動公園を出発する。

◎雨天・強風等の天候不良のために、ロケットの発射ができなかった場合は、昼食を食べて13:15に千代田運動公園を出発し学校へ帰る。後日、学校でロケットを発射する。

(小雨程度であれば実施するようにする)

6 会場・準備物等

(1) 開会式・講演会

【町教育委員会】

○横看板

北広島ふるさと夢プロジェクト (小6)
夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう

○演題

演題

思 う は 招 く

「夢があればなんでもできる」

講師 株式会社植松電機 代表取締役

植 松 努 先生

- 演台（パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台）
- プロジェクター ○スクリーン ○パソコンと接続出来る音響用スピーカー など
- パソコン（マック）は講師が持参。

【KumahiraPark 北広島】

- 音響装置（マイク・スピーカー等） ○椅子ー170 脚程度

(2) ロケット製作

【町教育委員会】

- 長机ー51 台

製作に使用する道具が 6 人 1 セットで用意されているため、6 人が向かい合わせで 1 つのグループ（2 台で 1 グループ）になるようにテーブルを配置する。

<22 グループ⇒44 台 準備用の机も必要なので、合計で 51 台程度必要>

- マジック〔油性〕

■黒 132 本ー児童一人に一本 <町教育委員会が購入>

【学校】

- グループ分けの確認

※事前に、児童にグループ番号を知らせておく。

- マジック〔油性〕を持参（色が 6 色等セットになっているもの）

■6 色等がセットになっているマジック〔油性〕

ーグループごと最低で 2 セット、全体で最低 56 セットは必要。

(3) ロケットの打ち上げ

【町教育委員会】

- 安全な発射、多目的広場の安全確保のためのサポート員（10 人程度）
- スイッチを乗せる台（4 台）を、KumahiraPark 北広島（陸上競技場）より借りる。
- これまでに各校に配布されている発射台やスイッチ等は持ち寄らなくてもよい

(4) 予算・会計

【町教育委員会】

《株式会社植松電機》

- モデルロケットキット代（消費税別）

小学生以下・・・3,000 円／1 人 132 人分

- 交通費、宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく、株式会社植松電気規定の往復料金が必要。（後日まとめて請求あり）

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

7 報告書作成について

- 実施後に、ねらいが達成度や児童の思いを把握するために、アンケートを実施。児童アンケートは、集計の負担減、効率化の観点から「Google フォーム」で作成（町教育委員会）

【実施後の児童アンケートについて】

9 月 29 日（金）までに「Google フォーム」で回答する。（報告書や夢プロ便りの資料とするため）

- 次の内容の「報告書」を作成する。

業務改善の観点から「夢プロ便り」（A3 一枚）を活用して報告書を作成する。

(1) 講演の感想（120 字程度）	【八重東小・本地小】
(2) ロケット製作の感想（120 字程度）	【八重小・豊平小】
(3) ロケット発射時の画像	【アップ：大朝小、ルーズ：芸北小】
(4) 打ち上げの感想（120 字程度）	【壬生小・新庄小】

※10 月末に「夢プロ便り」の原稿が仕上がった時点で、町教育委員会の松長さん、「夢プロ便り」担当の二井岡校長、6 年ロケット担当の大丸校長とで調整する。

8 役割分担など

担当学校を中心に分担。

- 株式会社植松電機・講演講師との渉外（町教育委員会）
- 講師の昼食 弁当〔2 食〕の準備（町教育委員会）
- バス会社と連携（町教育委員会）

※事前に、町教育委員会が各バス会社に依頼 駐車場所の確認は学校毎

- 教育委員会届出・保護者通知文（新庄小作成⇒各学校配付）
- 会計（町教育委員会）
- 全体会に関わって
 - ◆全体会進行　＜片桐教諭（大朝小）＞　※事前に進行細案を提示
 - ◆開会式挨拶　＜大丸校長〔新庄小〕＞
 - ◆閉会挨拶・謝辞＜金原校長〔大朝小〕＞
 - ◆児童代表挨拶（閉会）＜本地小＞　◇記録写真
 - ※児童挨拶者を決める。
- 担当者　＜町教育委員会一松長　新庄小一大丸、大朝小一金原＞
- 夢プロ便り　＜豊平小一二井岡＞

9 留意事項

- プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させる。安全な実施ができるように事前に各学校で指導をしておく。
- 服装は各校の通常の通学服とする。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具＜傘、カッパ・レインコート等＞を持参する。
- 特別な支援を必要とする児童、健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、引率職員体制について各校で配慮する。
- 前日の9月25日（月）15時より、会場準備等を町教育委員会職員と一緒に行うので、各学校1名以上の職員の参加。町教育委員会は、午後から準備。
 - ⇒依頼の文書は、町教育委員会より送付
- 授業時数カウント（案）…学校行事2h、総合的な学習2h、図画工作1h、学級活動1h

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

令和5年9月26日（火）、北広島町内の全小学校6年生児童を対象に“北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」”を開催しました。

北広島町・北広島町教育委員会と各小学校は、次のことを目指してこの事業に取り組んでいます。

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することの素晴らしさを学ぶ。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。

今年で9回目を迎えるこの事業は、これまでも小学校6年生が学びそして体験してきており、「6年生になったら体験できる…」と毎年子供たちが楽しみにしている事業です。今年度も、北海道から植松先生をお招きし、町内8小学校の6年生がKumahira Park 北広島（千代田運動公園）に参会しての講演会を実施しました。また、新型コロナウイルスによる行動制限緩和を受けて児童の学校間交流によるロケット製作を復活させ、天候にも恵まれたため現地で製作したロケットを発射しました。

植松努代表取締役講演会 演題「思うは招く～夢があれば、なんでもできる～」

植松先生は、小さい頃からの夢であるロケット製作を実現するために、ロケットとは関係のない小さな会社で夢と希望をもってロケットづくりを始められ、自らの夢を実現するために努力を続け、民間では偉業ともいえる宇宙へ飛ぶロケット開発を成し遂げられました。6年生の子供達は、植松先生のユーモアと感動のある話に引き込まれ、将来への夢や希望をもって努力することの大切さを学びました。これから中学校へ進学する6年生にとって、とても価値のあるお話でした。講演会で植松先生からいただいた言葉を紹介します

- 人の出会いには意味がある。→ 人は出会うことで変わることができる。
- 不安の向こうに喜びがある。 ○人は足りないからこそ助け合える。
- 人を助けるために必要なのは「やさしさ」なのです。 ○「ちがうはすてき！」→ 奇跡を起こせるキーワード
- 失敗も「何でだろう」「だったらこうしよう」と思うと力になる。
- 「失敗をしないために」を突き詰めると、何もできない、成長もできない、考えられなくなる。
- 自分の夢をどんどん人に話そう。 ○「どうせ無理」は、自分の自信と可能性を奪う最悪の言葉。
- 伝記を読もう。つらいことの乗り越え方が書いてある。



講演を聞いた児童の感想

植松先生のお話を聞いて心に残った言葉は、「足りない自分をだめだと思わない」という言葉です。わたしは、算数の計算がきらいで、あまりできなくてだめじゃんと思いこんだことがありました。でも、これからは、だめだと思わずできることからどんどんやっていこうと思いました。今日のお話を大切にして生活を送ろうと思いました。

植松先生のお話を聞いて学んだことは、自分の夢を追いかけ続けるということです。

他校の同級生と協力して、夢のロケット完成！

ロケット製作は、基本的に自分達の力で行います。説明書を見ながら、児童達は作製しました。今回は他校の児童と一緒にグループ編成だったので、最初は緊張した様子でしたが、時間が経つにつれて協力しあう様子がみられました。

ロケット製作・発射の様子



ロケット製作・発射の児童の感想

ロケット作りでは、作り方が分からず困っていましたが、植松さんの「人は足りないからこそ助け合える。」という言葉のを思い出し、他校の人に自分から進んで聞き、助けてもらいました。また、困っている人を助けてあげることができました。新しい友達と素敵なロケットを作ることができ思い出になりました。

私がロケット制作で一番心に残ったことは、友達と助け合ったことです。植松先生が「一人でやるよりも、みんなで助け合った方が良いロケットが作れるよ。」と教えてくださいました。最初は緊張して他校の人と話せませんでしたが、協力してロケットを作るうちに班の人と仲良くなることができました。

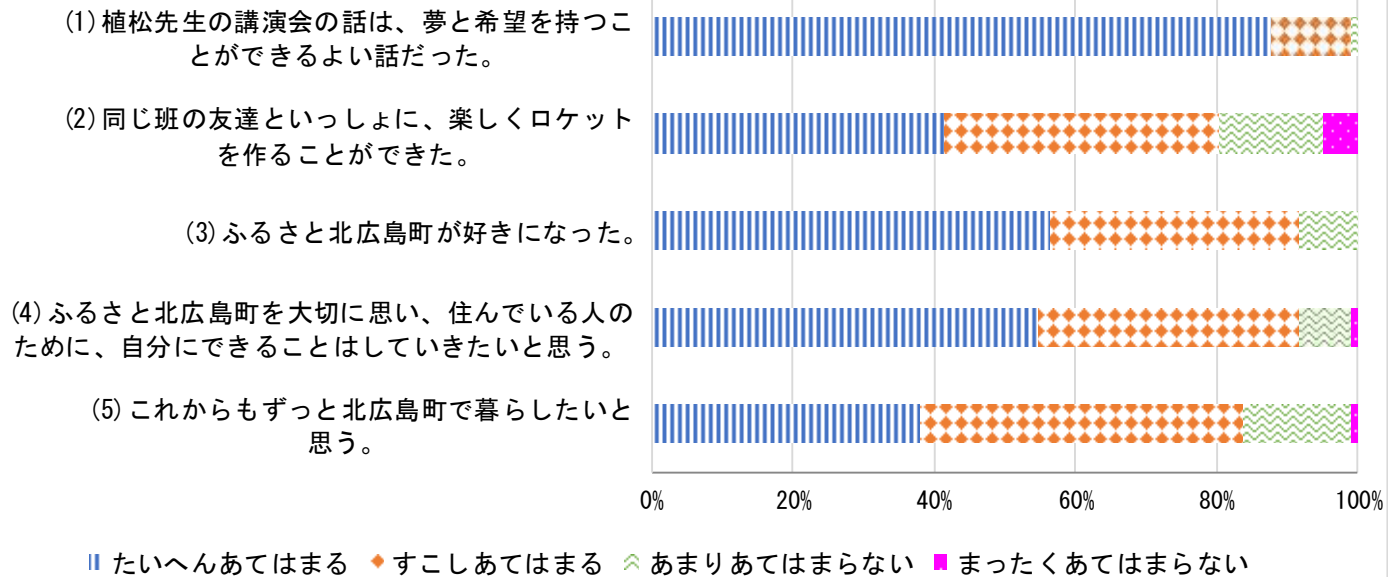
ロケットとばしでは、先に飛ばした人のロケットがうまくパラシュートが開かなかったのを見て、「自分のロケットがうまく飛ばなかったら」と考えて不安になりました。でも、自分のロケットがうまく飛んでとてもうれしかったです。そして、科学が進歩することはすごいと思いました。

となりの子と教え合いながら作成したロケットを、飛ばす時がやってきました。前の人からどんどん打ち上げていき、すぐに僕の番になった時にはとても緊張しました。発射のボタンをおした瞬間に、ロケットが高く飛んでいき、びっくりしたのと同時にとても嬉しかったです。

児童のアンケート結果から（詳細は次ページ以降参照）

児童アンケートでは、「夢に向かって」「諦めない」「招く」など、講演会についての感想がありました。また、今回、集合でロケット打ち上げが出来たことから、「パラシュート」「飛ばす・打ち上げる」など、体験の感想が多くありました。「1 講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった」のアンケートに対して99%以上の児童が肯定的に受け止めており、事業のねらいが達成できたと考えられます。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（6年）



講演会話を聞いての感想や思いを自由に書いてください。（抜粋）

芸北小学校

○自分の夢を恥ずかしがらずにやったことがある人に会えるまで色んな人に自分の夢を話していきたい。

○何度も自分の夢を一つに絞ろうとしたことがあったけど「夢はいくつあってもいい」と知ったので自分の夢をたくさん持ちたいです。その夢からまた新しい夢を持ちたいです。

○僕も諦めずに夢に向かっていきたいです。

○夢はたくさんあって一つじゃなくても、たくさんの道を作っておいたら、たくさん選択肢があるから。

○植松さんの話の不安の先は喜びということで、やることに自信を持ちたいです。

○自分の夢を人にたくさん話そうと思います。

○植松さんが言われた夢はたくさんあった方がいいと思う。

○言葉を聞いて、これから夢をたくさん持っていきたいと思いました。

○無理だなど言わずに諦めずに頑張っていきたい。

大朝小学校

○話を聞いて、夢を持つことに自信ができました。

○話を聞いて、夢を持つことは良いことなんだとわかった。

○『どーせむり』は人の自信や夢を奪ってしまういけない言葉だと知りました。出会いを大切に自分の夢を思い続けて過ごすことの重要性を学べたので、これからの生活にも活かしていきたいです。

○すぐに諦めるんじゃなくてだったらどうするのかを意識して生活をした。

○聞いたことを将来のために活かしていきたいと思う。

○どうせ無理と言われても、こうすればいいと考えることがいいなと思いました。

○どのお話もすごく心にのこりました。

○諦めないことは、とても大切なことだとあらためて思った。

○どの話もすごく心に残る話で、自分に自信がもてたし、夢の大切さがわかりました。

○今まで何度かつらいこともあったけど、夢を叶えた植松さんを凄いなと尊敬しました。植松さんの本を読んだことがあって、その中にある名言も講演会で言っておられて面白かったです。読んだ本のタイトルが「思うは招く」で、植松さんの中でとっても大切な言葉だったんだなあと、知らないことが知れてよかったです。私も、「思うは招く」を読んで、思うは招くという言葉大切にしていたので、少し嬉しくなりました。

○どうせ無理じゃなくてどうするかで、私は無理とすぐ思ってしまうけど植松先生の話聞いて、すぐ諦めないで頑張りたいなと思いました。

新庄小学校	
○違うは素敵という言葉が心に刺さりました ○とても勉強になりました。この講演を子供だけでなく、大人にも聞かせたいと思いました。 ○植松先生の話しで共感することが多くて嬉しかった。 ○私はイラストレーターの夢を諦めてしまったけどもう一度頑張ってみようと思いました。 ○あきらめない気持ちが大切だと知った。 ○今度からどうせ無理と言わないようにしようと思った。 ○アニメやゲームが好きとおっしゃっていたので共感できた。	○夢を持ってさえいれば何でもできるわけではないけど、夢を持ってそれに向けて頑張らなければなんにもできないなと思った。 ○植松さんに教えてくださった「夢があれば何でもできる」という言葉を一生大切にしようと思った。 ○（どうせ無理）を、無くしたい。諦めなくしたい ○女性の方が、不器用と言ってロケット作ってみると上手に作れて、「泣きながら喜んでいる」という話を聞いて、とても感動した。僕も、しっかりしたロケットが作れて感動しました。
八重小学校	
○どーせ無理じゃなくて、どーすればいいのかなって考えることが大切ということのを忘れずにこれからも頑張りたいです。 ○将来の夢のことで不安だったけど話を聞いて安心しました。 ○夢は何回でも持てる。 ○やったことのない人の意見よりも、やったことのある人の意見を参考にしようと思った。 ○夢は1つより何個もあったほうがいい。 ○大変なんだということがわかった。 ○自分の将来の夢に自信を持てた。 ○すごく植松先生の話を聞いてロケットが意外と簡単だった。 ○失敗したことがある人だから説得力があった。 ○自分はまだ夢はないけど、植松さんの講演会話を聞いて自分の将来の夢ができたなら、将来の夢のことを他の人に否定されても諦めず、その夢を最後まで頑張ろうと思いました。 ○大人などに無理と言われてもあきらめないようにしようと思いました。 ○話を聞いて苦手なこともするけど、好きなことも続けていきたいと思いました。 ○「ちがう」は「すてき」と言う言葉がとてもいいなと思った。 ○自分も努力しようと思った。 ○夢をあきらめさせるような言葉を使っちゃいけないと思いました。 ○ロケットの部品を自分達で作っていたからすごいと思った。	○人と比べて自信を持つことは、違うんだと分かった。 ○植松先生が作った、日本で初めて無重力実験装置を作ってすごいと思いました。 ○世界に3個しかないものをもっていて凄いなーーーと思いました。 ○自分たちのためになることがいっぱい、特に「夢はやったことがある人に行えば叶えられる」という言葉がとても心に残りました。 ○凄く自分のためになりました。それに植松さんが気さくそうだなと思いました。 ○植松先生のお話を聞いて、自分もこういう将来をみたい。 ○自分にはできないと思うことがあったけど、植松先生のお話を聞いて無理だからやらないじゃなくて、解決する方法を考えていきたいと思いました。植松先生はたくさんのロケットを飛ばしていてとてもすごいなと思いました。 ○植松先生の「どうせ無理はやめてどんどん取り組む」というところが良かったです。 ○自分はどうせ無理や俺にはできんしと思っていつも諦めてばかりだったけど植松先生のお話を聞いて少し頑張ってみよう！色々な事に挑戦してみようと思いました。 ○すごく心に残る講演会で、私達も引き込まれるような内容だったから1時間が短く感じたし飽きなかった。 ○「他人の夢は応援してあげる、自分の夢は目指し続ける」ことをするというのを教わって感じた。

○どうせ無理じゃなくて、どうすればいいか考えることを忘れずに過ごしていきたいです。 ○将来どんな大人になるかワクワクした。	○知らなかったことが知れた。 ○すごく優しく話してくださって、講演も分かりやすかったです。
八重東小学校	
○植松先生のお話を聞いて、「思いは招く」という言葉が心に残りました。これからも大切にしていきたいです。 ○「思うは招く」という言葉が心に残りました。 ○植松先生のお話を聞いて、夢のことを話していただいたので今後に活かしていきたいです。 ○夢や希望を持つことを大切にしていきたいと思った。 ○とても心に残るお話で、やればできるということを教えてもらった。 ○植松先生の話聞いて自分が決めた夢を他の人に止められても諦めない。 ○植松先生の話が心に響きました。	○とても将来のためになるとてもいい話でした！この言葉を一生覚えておきます。 ○植松先生の話聞いて思ったことは、どーせ無理などと思わずに、やったことがある人と一緒にやるのが大切なんだなと思いました。 ○新しい自分を見つけることができました。 ○みんなと協力しあいながら講演会話を聞いて、自分が一番心に残ったことは、「失敗はステキ」ということです。理由は、今までは失敗は恥ずかしいことだと思っていたけど勇気づけられました。ありがとうございました。
壬生小学校	
○植松さんの話を聞いていっぱい夢を持とうと思った。 ○将来の夢をいっぱい持とうと思った。 ○また植松さんの話を聞きたいです。(ˆoˆ) ○好きな事を追いかけてみようと思った！！ ○また夢を信じて行こうと思った！ ○植松さんお話で、私はどーせ無理はやめてなんでもチャレンジしようと思いました。 ○改めて生きることの大切さや自分自身の可能性に気づけた。 ○植松さんのお話を聞いて、私は大きな夢や小さな夢を抱いたときどうすればいいのかわかり、昨日はそうゆうことが学べたんじゃないかなと思いました。 ○夢を持つことって、いいことだなと思いました。 ○自分はまだ夢が決まってないけど将来の夢を持つことの自信を持てました。 ○植松先生の話聞いて夢や希望が持ててとても良かったです。 ○「役立たない」と思わずに、好きなことを中心に将来の夢を考えていきたいと思いました。 ○とても良くわかり小さいけど、僕たちが飛ばしたのは本物のロケットだと知った。 ○昔の考え方や大人やったことない人にとらわれず自分のできることを伸ばしたいと思いました。	○人との関係性も大切にしていきたいです。 ○すごくいいお話とゆうのが伝わってきました ○夢をたくさん見つけて、将来のために頑張りたいと思います。 ○すぐに諦めるんじゃないでどうなんだろうと考えたりしようと思った。 ○僕も植松先生のように大きい夢を持ちたいと思いました。 ○実際に努力して成果を出した人の話だったから、とても説得力があった。 ○また自分が好きなことを続ければいつか成果が必ず出るということがとても分かった。それに、他の人に反対されたり怒られたりしても、好きなことを続けたから成果が出たことが分かったから、自分も好きなことを貫こうと思った。 ○夢をあきらめないで頑張ることはすごいと思いました。一つの夢がなくなったら、またもうひとつの別の夢に向かって進んでいけばいいと思いました。夢は一つじゃあない、どれも繋がっていると知って感動しました。 ○「夢があれば何でもできる。」という言葉が心に残っています。自分がおとなになって仕事を決めるとき、夢につながった仕事につけたらうれしいです。

本地小学校	
○植松先生が、色々な話を面白く話してくださり、最後まで楽しく聞くことができました。夢を誰かに馬鹿にされても、それは自分の自由なのは、という事がわかり、また考えが変わりました。植松先生のお話で心を動かされて、とてもいい経験でした。植松先生、ありがとうございました。 ○植松先生のお話を聞き、誰かに夢を「無理でしょ」「できない」など言われても諦めずにやり続けることが大事だと思いました。他には、自分の持っている目標や夢を友だちに言うてみることも大事だと知り、友達や家族に言うてみようと思いました。 ○植松先生の言葉、「思うは招く夢があれば何でもできる」と聞いて僕もこれからは、夢を大切にしていきたいと思いました。また、どーせ無理と言うんじゃなく、だったらこうするという考えを持って、これからも生活していこうと思いました。 ○講演を聴く前まで、自分は「〇〇することができない」「どーせむり」と考えて、マイナス思考でいました。でも、講演を聴くと、「自分には〇〇することができ」「きっとできる」と自然に思えるようになりました。通知表や、先生からのメッセージでは何かと比べられていて、少し腹が立つように思っていました。でも、講演では比べなくてもいいことがわかり、少し気が楽にもなりました。 ○植松 努先生、先生の話聞いて暗く思っていた将来が明るくなりました。先生の言葉が自分の背中を押してくれそうな気がします。本当にありがとうございました。	○やったことのない人に「そんな夢なんてどうせ無理」と言われても、その夢に向かって頑張れば、やったことのある人に聞けばいい、どうせ無理ということは人に言うてはならない」ということが心に残りました。だからこれからは、冗談でもそんな事は言わずに生活していきたいと思いました。 ○僕は植松先生のお話を聞いて「どーせ無理はこうすればいい」のところが心にグット来ました。 ○僕はこのどーせ無理みたいにすぐさま諦めていたけど植松先生の言っていたことで僕はこれから頑張ろうと思いました。 ○講演会のお話を聞いて、「絶対に無理は、じゃあこうしたらいいじゃんに変えろ」が一番心に残りました。今までは無理だろト言われたら、「やっぱ無理かー」って諦めていたけど、これからは「じゃあこうやってやった出来るかも」って色々な方法を考えてやっていきたいという思いになりました。 ○僕は植松さんのお話を聞いて「夢は諦めなかったらなれる」ということがわかりました。また、今は夢はないけど、いずれ夢ができたとき二夢を諦めないようにしたいです。 ○植松さんの「思うは招く」が一番心に残りました。なぜかという、植松さんが言っていた、「自分はだめだけど、お母さんが思うは招く」っと言っていて、植松さんが思ったら夢が来るって言っていたから僕は一番心に残りました。”
豊平小学校	
○植松さんは勉強は嫌いだったけど ロケットのことは好きで、夢をあきらめなければ夢をかなえることができいて、僕も夢をあきらめないぞと思った。 ○自分の好きなことを頑張れば良いということが夢につながると知った。 ○この夢プロのためにわざわざ遠い北海道から植松さんが来てくださり色々なことを教えてもらえて嬉しかったです。 ○「思うは招く」という言葉に最初はすこし難しく、意味が分からなかったが、約一時間のお話を聞くと努力は報われるし、今まで人に言われてきて諦めてたことをもう一度やろうと思えるようになった。	○夢をもっと増やそうと思いました。 ○いっつも僕は、どうせだめを１００回以上言っていたけどこれからは、どうせだめっていつてしまったら植松さんの話を思い出してどうせだめをあまり言わなくしたいです。アト、植松さんの話を聴いてめちゃくちゃ面白いなと思いました。 ○「思うは招く」と聞いて僕は、「〇〇する。」と思いながら生活したいです。 ○私は将来、警察官になりたいと思っています。体力がないから無理かなって思っていたけど、植松先生のお話を聞いて、体力だけが全てじゃないと思い、私もなれるのかなという希望を持つことができました。

○私は話を聞いて、夢ができたとき、その夢に向かって頑張りたいと思いました。 ○私はこれまで勉強など諦めることもあったけど、まずはこうしたらいいんじゃないかなと考えることが大切だと思いました。また植松先生の講演会は私に当てはまることが多くあったので、植松先生の講演会を活かしていこうと思いました。 ○講演会を聞いて、私が持っている自分の夢を大切にしていって夢を諦めないようにしたいです。また、夢をたくさん持ちたいと思いました。	○自分もよく諦めたことが何度もあるけど植松先生の講演会を聞いて自分も頑張ろうと思えた。 ○植松さんの話をきいて心に残ったのが、まずやってみるということです。僕はこの話を聞いて、みんなが無理やできないなどと言われていることを挑戦して、植松さんのようにできないをできるにしたいです。 ○特に「どーせ無理。だったらどうする」というところが心に残った。
---	---

ロケット作りをしての思いや感想を自由に書いてください。(抜粋)

芸北小学校

○自分で作ったロケットがちゃんと飛んだときはすごく嬉しかったからまた自分のロケットを飛ばしたい。 ○たくさんの友だちを作ることができました。また、夢を乗せてロケットを飛ばしたので、これからは夢に向かって頑張りたいと思いました。 ○ちゃんと飛んでいて、僕にもできるんだなと知った。 ○自分のロケットを飛ばして、今までの自分がしたことをふっとばすことができた。	○夢をのせて飛んでいったと思います。 ○また、ロケットを飛ばしてみて、家族とかに見せて興味を持ってもらいたいです。 ○最初は失敗するかと思いましたが高くまで飛んだので良かったです。 ○最初はロケットが飛ぶか心配だったけれども、飛んで嬉しかったです。 ○自分で作ったロケットが空高く飛んでいったので嬉しかったです。
--	---

大朝小学校

○頑張って作ったロケットが、とても高く上がって嬉しかったです。 ○初めて作ったので、上手に飛ぶか不安だったけど、しっかり飛んでくれて嬉しかったです。 ○打ち上げのとき「ちゃんと飛ぶかな」と心配だったけど「びゅー——ん」と力強く飛んでいって嬉しかったです。 ○最初は「飛ぶかな」と思ってドキドキしていたけれど、飛んだらそんな気持ちはなくなって「飛んでよかった」という気持ちになった。 ○班の人とロケットを作りながらお話できたし、ロケットを打ち上げたとき、ちゃんとパラシュートが開いてすごく嬉しかったです。 ○ロケット作りは、みんなと協力したのでみんなできて、打ち上げをしたときは、時速200kmの速さで飛んでいったのでびっくりしました。 ○ロケット作りのとき、隣の豊平小学校の子と仲良くなりました。自分から積極的に話すことができて良かったです。	○とても早くてびっくりしたけど高く舞い上がってとても嬉しかった。でも少し不安だった・・・高く舞い上がったときになんとかスッキリした気持ちだった。いい経験をしたなと思っています。このロケットは私の思い出になるロケットだと飛ばしてそう思いました。 ○ロケットを作るときに、他の学校の人と話せるようになったし、自分で簡単だとしてもロケットを作れて、自信ができました。他にもロケットを飛ばす時に不安になる気持ちがわかりました。 ○打ち上げは、パラシュートが開かないかと不安になったけど、開いてくれました。パラシュートはたまたみ方が分からず、何度も何度もやり直した難しかった工程なので、とても嬉しかったです。 ○みんなで話しながらロケットを組み立てて楽しかったです。パラシュートが開くか心配だったけど開いてくれたから嬉しかったです。けどキャッチできなかったからしかなかったです。他にも飛んでくれて良かったです。
--	--

新庄小学校	
○うまく飛ばすことができなかったで、家で崩して直しいです ○自分で作ったロケットが勢いよく打ち上がって、パラシュートでちゃんと降りてきたのが嬉しかったです。あのエンジンが一番小さいエンジンだということに驚きました。 ○すごく高いところまで飛んで良かった。 ○ちゃんとパラシュートがちゃんと出てくるか心配だったけど開いて嬉しかったです。 ○少し難しかったけど班の人のを見てうまくできた。	○うまくパラシュートがひらいてくれたから嬉しかった。 ○みんなで話しながら楽しく作れたし、打ち上げも見っていて嬉しかったです。 ○最初は失敗したけど、植松さんに直してもらい飛ばすときれいに飛んだから嬉しかった。 ○きれいに飛んで、パラシュートもきれいに開いて良かった。 ○ロケットは取れなかったけど、打ち上げるときにドキドキしたので、面白かったです。
八重小学校	
○ロケットを飛ばしたあとキャッチできたことがうれしかったです。 ○友達ができたりしてとてもおもしろかったです。 ○失敗せずに打ち上げる事ができてよかったです。 ○自分が作ったロケットが空高く飛んできれいにパラシュートが開くと、すごいなと思った。 ○班の人と楽しくロケットや打ち上げをできてすごく楽しかった。 ○自分が初めて作ったロケットが飛んだーという気持ちが強かったです。 ○他の学校の子と仲を深めることができた。 ○初めての経験でうまくできるか心配だったけど、思ったよりうまくできたし、打ち上げでうまく飛んでくれたので良かったです。他の学校の人とも交流できてとても楽しかったし、良い経験になりました。 ○失敗せず飛ばせたので良かったです。 ○初めて作ったロケットが飛ぶのに成功して嬉しかったし、また作ってみたいと思いました。 ○ロケット作りがとても簡単で説明書がとてもわかりやすかった。 ○打ち上げでロケットが取れるかを友達と見るのがとても楽しかった。 ○ロケットが飛んですごいと思った。 ○思ったより高く飛んでいったのでまた飛ばしたいと思ったし、科学の力は結構すごいと思いました。 ○自分たちがつくったロケットがあんなに高く飛ぶとは思わなかった。 ○班の人と喋れて嬉しかったです。	○ロケットが打ち上がる時にすごく緊張して、うまく飛ぶかなあと思っていて、無事に飛んだ瞬間は良かったーと思ったし、心がすごく軽くなった感じがしました。 ○少し下手に作ったかもしれないから、上手く飛ばせるか分からなかったけれど、なんとか飛ばせて嬉しかったです。 ○ロケットを作るとき分からないところがあったら、同じグループの人が優しく教えてくれた。 ○あまり他校の人と話したりしてないけど、助け合ってロケット作りができました。 ○初めてのロケット作りでドキドキしたし、班の子と話せてよかった。 ○打ち上げはしっかり上がって嬉しかったし落ちてきたのを取りたかった！ ○ロケットを作るときに分からないところがあったら同じ班の人を見て楽しく作ることが出来ました。飛ぶか分からなかったけど発射したときに高く飛んでパラシュートも開けていたので良かったです。 ○ロケットを作るとき、分からないところがあったら優しく教えてくれた。 ○打ち上げをしてこんな物作れるなんてすごいと思った。 ○打ち上げのときに植松先生と話せて嬉しかったです。 ○他の学校と交流ができて良かったです。 ○ロケットの打ち上げは飛ぶかドキドキしたけど飛んで良かった。

八重東小学校	
○ロケット作りは難しかったので、打ち上げるとき心配だったけど無事に打ち上げできたので良かったです。 ○一生懸命作ったから成功したことが嬉しかったです。 ○一回目飛ばしたときは不発でくやしかったけど、二回目やったとき成功したので、とても良かったです。 ○ロケット作りは少し難しかったけど楽しくできた。 ○ロケットをちゃんと打ち上げられて嬉しかった。 ○頑張って作ったロケットを無事に飛ばすことができてよかった。 ○飛ぶか不安だったけど飛んだときは、感動しました。 ○すごい勢いで飛んでいったし、高く飛んだのでびっくりしました。	○ロケットがちゃんと打ち上がって、とても感動しました。また作りたいです！ ○どうやるのかが最初は分からなかったけど、隣の人とかに聞いてうまくできたので嬉しかったです。 ○友達と一緒に話しながらロケット作りを楽しく行うことができました。 ○最初は失敗するかなと心配だったけど、無事に失敗することなく打ち上げられて良かったなと思いました。 ○新しい未来を飛び出しそうになりました。 ○ロケットが打ち上がって嬉しかった。ロケットを作ってやりがいがあった！ ○みんなで、楽しく作ったロケットが空に打ち上げられてとても嬉しかったです。
壬生小学校	
○ロケットを作ったり、飛ばしたりして楽しかったです。 ○またロケットを作って飛ばしたいです。 ○自分の作ったロケットが飛ぶか分からなかったけどよく飛んで嬉しかったです。 ○あの小さな火薬であそこまで飛ぶとは思わなかったからびっくりしました。またやりたいのでアマゾンでポチります！ ○頑張って作ったロケットを打ち上げるのがわくわくしたし、ロケットを打ち上げて、パラシュートが開いたときはすごい感動しました！ ○はじめはうまく飛ぶか不安だったけど、いざ飛ばしてみてもしっかり飛んで感激しました。 ○ロケットを作って、みんなで信頼を深めることができたので良かったです。 ○他の学校の人達と教え合ったりしながら、話したり、協力したりしてするのも楽しかったし、ロケットを打ち上げ、パラシュートが開くときはとても感動しました。 ○新しい友達ができた。 ○ロケットを作るとき、ちょっと難しかったです。ゴムをつに付けるのが難しかったです。パラシュートをたたむのも難しかったけど、ちゃんと完成できて嬉しかったです。色も気に入っています。	○ロケットを飛ばすときにちゃんと飛ばなくて失敗したかなと思ったけど、植松先生が来てくださってパラシュートがロケットにひっかかっただけと言ってくださって安心しました。いつか飛ばすときはちゃんと飛ばしたいなと思いました。 ○打ち上げた時の達成感が感じられた。 ○ロケット作りは絵を描くだけだと思っていたけど、実際は自分たちで1から組み立てて作ったから楽しかった。それに、宇宙などでも活躍している本物のミニロケットを自分たちで作ったからすごいなと思った。 ○ロケットがよく飛んだのがよかった。ロケットが空に高く飛んだのが心に残っています。 ○ロケットを飛ばすとき、待っている間、飛ぶか飛ばないかが心配でした。スイッチを押すときドキドキしました。ぼくのロケットが高く飛んですごいなと思いました。やったぁと思って嬉しかったです。

本地小学校	
○みんなとめちゃくちゃ楽しく、おしゃべりまでは行きませんでした。少し勇気を振り絞って少し喋ることができました。打ち上げも見事成功し、とても達成感があって楽しかった。中学になったら、交流した子以外の子とも、仲良くなりたいです。 ○飛ばすとき、失敗するかもしれないと不安だったけど、実際に飛ばしてみると、ロケットが高く飛び、パラシュートがきれいに開けていたのを見て、私は科学は面白い、すごいと思いました。また作ってみたいなと思いました。 ○ロケット作りでは、同じ班の人と分からなかったら聞くという風に協力する力が付きました。打ち上げをして、ちゃんと作れているか心配だったけど、飛ばせたときは、嬉しかったです。 ○打ち上げのときは、1回目は、パラシュートがうまく開かず失敗してしまいました。でも、2回目は成功しました。とても、達成感があり、感無量でした。 ○ロケット作りでは、こうやって飛ばすのかな。これで飛ばんだ？などを考えながら作った。しかも友達が増えて嬉しかった。	○3、2、1という掛け声とともに、緊張が増しました。だから、北海道で上げるときの皆さんの気持ちが、少しわかったように感じます。だから、宇宙の仕事にも、少し興味が湧いてきました。 ○できるかどうか不安だったけど自分で作ったロケットが空高くまで飛んで、自分にもできたという気持ちになり、とても嬉しい気持ちになり、自分にもできたんだと感ずることができましたから、これからは不安でもやってみるという気持ちを大切にしようと思います。 ○初めはこんなのが本当に飛ぶわけがないと思ってたけど、飛んだ瞬間に、僕はとても嬉しい気持ちになりました。 ○ロケットが落ちないかな大丈夫かなって気持ちだったけど、最後では成功して、嬉しいとか自分でもできるんだっていう気持ちになりました。だからこれからは諦めずにやっていきたいという思いになりました。 ○僕は知っている人がたくさんいたから知っている人と話して、流れに乗って知らない人と話すことができました。
豊平小学校	
○自分が作ったものが 時速 200 キロで空まで飛んでったのですごかったです。先生じゃなくて友達に手伝ってもらって上手にできたから 嬉しかったです。 ○私はロケット制作のときに、他の学校の知らない人とやるので最初はとても緊張していたけど、教えあっているうちにどんどん仲良くなっていったので良かったです。 ○ロケット制作のときは他校の人とあまり話せなかったけど、それが終わったあとや打ち上げるときに沢山のひとと話せたので良かった。 ○ロケット制作では、他の班の人たちと自己紹介をして、最初の方はそれぞれ独自で作ったりしていた。でも、その後、他の子達の作り方を見る、分からなかったら聞いてみる、ロケットに何を書くか話しながらアイデアをたくさん出した。また、最初の方は緊張してなかなか作業が進まなかったけど、じょじょになれていき、最後には雑談したりするなど仲良くなって、いい機会になった。	○私は、初めて会った学校のひととロケット作りをして、緊張していたけど、たくさん話すことができた。時間はギリギリでできたけど、班の人とたくさん話して協力できて、とても楽しかった。ロケットが打ち上がったとき芸北小学校の人と打ち上げができてよかった。 ○ぼくは、最初は、みんなと一緒にあんまり恥ずかしくて話せなかったけど、でも最後はへんになってから僕が分からなかったから勇気出して（これわからんのだけど教えてくれんと）言えたのでスッキリしました。あと、植松さんの話をきいて僕が1番心にのこったことは、「思う招く」と「どうせだめ」が心に残りました。これからは、「どうせだめ」と「思は招く」を言ったら植松さんの話を聞いて思いたしたいと思いました。

○僕は、緊張してみんなと話せなくて黙々と作業していたけど、最後に自分から「自己紹介しよう」と誘い、みんなと話せて、嬉しかったです。ロケットがすごく良く作れたから楽しかったです。

○植松先生が「一人で無言でやるよりも、みんなと話し合い助け合うといいロケット作れるよ」。と教えてくださいました。私は今回、初めて会う人でも助けあったらすごいロケットが作れることが改めて分かったし、話し合ってやることで、いろんなことが知れたので楽しかったです。

○打ち上げる前はうまくパラシュートが開くか不安だったけどうまくパラシュートが開いてホッとした。班のみんなや他校の人たちとロケットを見せ合ったり話し合ったりしてロケットを作れたことが楽しかったです。

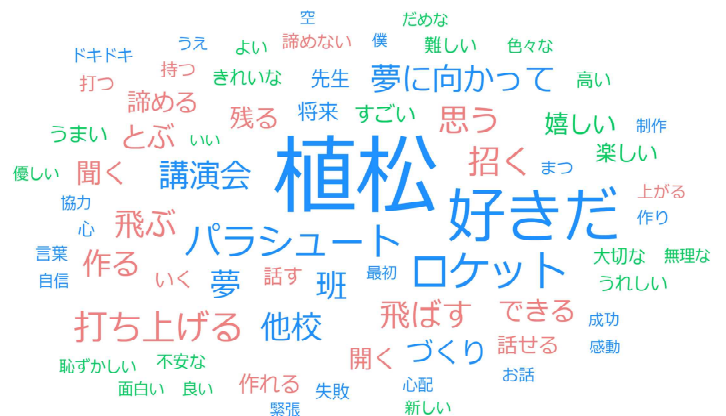
○私は、初めてロケットを作りました。初めて合った他の学校の人となかなか話せなかったけど、楽しく作ることができました。特に楽しかった作業は、飛行機の下の部分に、羽みたいなのをカチツとはめる作業です。理由は、強い力じゃないとはまらないから、強い力で抑えてはめて気持ちよかったからです。難しかった作業は、パラシュートに糸を巻く作業です。理由は、糸がぐちゃぐちゃになって、どうやったらきれいに巻けるか分からなくてかなり手こずったからです。また、ロケットを打ち上げたときは、感動しました。理由は自分が初めて作ったものが、きれいに飛んでくれて成功して嬉しかったからです。

児童のアンケートから

6年生でも、事業後に実施したアンケートで、児童が記載した感想をテキストマイニングしたワードクラウドと呼ばれる図を作成した。

「夢に向かって」「諦めない」など、講演の内容から感じて欲しいキーワードが多く挙げられている。また、今回、実際にその場でロケットを打ち上げられたことから、そういった感想も多く上がっていた。

夢と希望をもつことが出来るきっかけとなり、友達と協力することも出来、事業に対して肯定的な意見が多く見られた。



「北広島ふるさと夢プロジェクト」小学校事業を振り返って

北広島町教育委員会
北広島町内小学校

「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の9年目を終えた。

新型コロナウイルス感染症、昨年5月に5類感染症になり、活動内容もほぼ感染症流行前の内容で本年は実施することが出来た。

4年生の「お宝発見ツアー」事業は、各学校でツアーの目的を考え、北広島町を体験出来る内容で事業を行うことが出来た。5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～事業は、体験活動で学校間交流を復活し、他校の児童との交流を充実させて実施をすることが出来た。6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」事業は、講演会后、天候にも恵まれ、ロケット製作後の打ち上げを集合で実施することが出来た。

参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると、全体的には、「児童に町の魅力を再認識させることができ“ふるさと”への愛着心を育てたり、将来『北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい』という思いや考えを育てたりすることに効果的であった、と言える結果が出ている。ふるさと北広島町や自分の生き方について考えを深めることができた事業であるといえる。来年度、本事業は10年目を迎える。見直しを適宜行いながら、継続して事業を実施していきたい。

プロジェクト全体を通しての振り返り

- さまざまな支援のお陰でこんな貴重な体験ができていることに感謝いたします。
- 夢プロ便りや事後作文、アンケートなど、後からやることも多い。見通しをもって取り組めるようにしたい。
- 体験できる企画はとても良いと思います。より効果的により負担少なく役割分担をすると良いです。
- いずれの内容についても、貴重な体験活動だと思いますので、継続していただけると有難いです。
- 北広島の魅力を児童が語るができるようになるためには、やはり知ること、体験することが一番だと思います。様々なプログラムが準備できるだけの素敵な町だということを改めて感じさせていただきました。北広島を大切にできる児童が増えてほしいですし、そのことが将来の北広島を支えてくれる大きな力となると思います。計画的に行われている夢プロを大切にしていきたいと思います。

学年ごとの事業の振り返り（管理職・引率職員等）

※枠内は管理職、他は引率職員

【4年生の「お宝発見ツアー」について】 （成果）

- 町内巡りをする事で、視野が広がり、町への愛着が増す。
- ドライバーを措置していただき、安心して参加できた。
- ユートピアサイオトでのジップラインは全員初めての体験であったが、全員が挑戦することができ、達成感を得ることができた。北広島町でしかできない楽しい体験をすることで、ふるさとで、十分に楽しむことができることを認識することができたと感じた。
- 当日は雨模様であったが、自然館の方の配慮があり、芸北の自然についてしっかり学ぶことができ、同じ町内の他地域の良さを知ることができた。”
- 自分達の町の良さを発見できたことが成果です。行きたいところを選択できるのは良いです。
- 成果は、同じ町内にも関わらず、知らなかった施設や場所があり、みんなで共有できたこと。

- 普段、千代田に行くことが買い物やスポ少くらいで、今回見学させてもらった施設も建物はなんとなく見たことがあるというような児童がほとんどでした。町内に「こんな所があったんだ」という新たな発見をさせてもらったことに感謝です。また、見るだけでなく体験活動も多く、あっという間に時間が過ぎたようです。
- 同じ町内であっても児童の知らないことがたくさんあり、関心を持って見学、活動に取り組めた。
- 4年の社会科の学習と関連付けて芸北民俗芸能保存伝承館の見学を行うことができ、理解をより深めることができた。
- 「北広島町発の高級スピーカー（オオアサ電子）」「世界で唯一が北広島町に（テングシデ）」等の特別感で、地元愛を高めることができた。
- 荒天のため、急遽、テングシデ→北広島町図書館へと変更した。児童は残念がっていたものの、急な変更にも対応していただいたり、受け入れてくださったりして助かった。
- 北広島町にある、自然を活かしたアクティビティーや、自然に生きている動植物について知り、良さを体験することができた。
- 北広島町のことについて関心をもっていた。自然館の見学から、自分の住む地域との比較ができた。
- 児童は町内にいろいろな施設や会社、自然などを知ることができた
- 北広島町の自然を生かした施設の工夫や独自の生態系について考えることができた。

（課題）

- 町内のお宝の自然・施設・企業をどのように捉えるかがとても大切なポイントと考えます。単に見て回るだけでは、それをお宝と捉えることは難しいかなと思っています。なぜなら、それよりもっと素晴らしい自然や施設・企業が町外にたくさんあるからです。北広島町で規模は小さいながらもどうして存在しているのかまで詰めて学習させなければ効果が薄いかもしれません。
- 北広島町内を選んで見学できる良さがあるが、1日では回りきれない。

- 単独ではなく、他校と一緒に行けたら、交流の面でも成果となり得ると思います。
- この行事について計画を立て準備し、便り等に結構な時間を割く労力。

（取組の工夫と改善点）

- ◎見学地の候補、連絡先一覧などがあるとよい。
- ◎児童の主体性の育成という部分について、自分や友達同士でプログラムを考えて行えるアクティビティもあってよいと思う。
- ◎これまでのように、生涯学習課に全面的にサポートしていただけるのでありがたいです。
- ◎他校との交流ができたなら、教え合いや学び合いがあり、学習が深まるかもしれないなと思いました。
- ◎現在の進め方はわかりやすく整理されている。受け入れる側は、各校から個別に問い合わせを受けるので、大変かもしれない。

- ◎どの施設でも体験活動や自由に見て回れる時間を取り入れて頂いて良かったです。後日活動を振り返ったときに、体験からの学びを振り返る児童が多かったです。
- ◎他校との合同開催。
- ◎各施設への連携、昼食場所の確保等をしていただいているので、スムーズに安心して活動に向かうことができました。ありがとうございました。
- ◎見学地との交渉をしていただいていることは大変ありがたいと思います
- ◎ユートピアサイオトでのZ I Pラインの活動を終えてから、芸北高原の自然館に向かうまでの猶予がなく昼食の時間を十分に確保することができなかつたため、余裕のある活動スケジュールを立てることが必要であると考えます。

【5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～】について】

(成果)

- 中山間地域の特性を生かした取り組みになっていると思います。
- 親元を離れ民泊することで、親への感謝や家族愛の再確認、また自立への一步を踏み出すことができる。また家族以外の人から親切にされることで、自己肯定感が高まる。町内他地域の良さを知る事ができる。
- 民泊体験は、北広島町の良さを再認識したり、受け入れ家庭の人たちの温かさに触れたりすることを通して、ふるさとを大切に思う心や豊かな心が育っているような気がする。
- つかみ取りしたアマゴを自分で捌いて食べるという経験は、命について考えるととても素晴らしい機会となるため、継続して行っていきたい。
- 学校負担も少なく、体験活動のねらいに迫る内容だと思っています。
- 成果は、親元を離れて過ごしたことで、多少たくましくなれたこと。また、町内の新たな魅力にも気づくことができたこと。北広島を大切にしたいという思いが育ったように思います。
- 子供の思い出に深く残る。人とのつながりができるのがありがたい。

- 民泊体験成果:他校の児童との交流を通して、自校の友達だけではない人間関係を形成できたこと。
- 活動後に「○○小の子とまた会いたい」という発言も多かった。
- 初めて出会う民泊家庭の方とどう関わればよいか、体験を通して学ぶことができた。
- 子どもたちはとても楽しく活動ができ、もう一回行ってみたいと思う子がほとんどでした。
- 様々な体験ができ、地域の良さを児童が実感できた。民泊家庭の方との交流で、礼儀作法やマナーの大切さを学ぶことができた。
- 集団活動の中で、人間関係づくりに必要なコミュニケーション能力や協調性を養うことができた。
- 北広島町の良さに気づくことができた。
- 集団活動での過ごし方について体験することができたのは大きな成果だと思っています。
- 3日間の集団活動を通して、集まり方、待ち方、話の聞き方が良くなり、児童自身も自分たちの行動の変容を実感できていた。
- どの民泊受入家庭でも、児童はよい関係を築くことができたようで、民泊先でのいろいろな活動についても満足度が高かった。
- 体調不良により、2日目の夜に1名帰宅することになったが、家庭連絡等も問題なく行われた。
- 普段、何気なく過ごしている自分たちの地域の自然に触れながら体験活動することで、自分の住んでいる地域のよさや自然のよさに気づくことができた。民泊家庭で過ごしたり、他の学校と一緒に活動したりしたことで、普段から一緒にいる友達ではなく、初めて会った人とのコミュニケーションの取り方や共に頑張ろうとする力が高まった。その後も民泊家庭の方にお手紙を出したり、他学校の友達ができたりしていた。
- 他校とのよいつながりができた。自分のことは自分でしょうという意識が高まった。ふるさとの良さを感ずることができた。

(課題)

- 何もかもお膳立てしてあり、児童が自力解決していく学びに転換することがこれからは必要かもしれません。
- 民泊家庭によって、『もてなし』に差がある。(ありがたいが、やっていただきすぎではないかと思うこともある。)
- 様々な体験ができた。共通の活動時に大人がどの活動時も多いと思いました。人数が多いので学校の先生を減らして、先生ではなく地域の大人と活動する経験をさせたいです。また、各民泊引受家庭に学校が写真を撮りに行くのも無くて良いと思います。夕方から結構な移動範囲で大変です。

●芸北小と八重小は単独で交流ができていない。また、町教委が段取りをしてくださるので働き方改革の意味でとても助かる一方、職員のこの行事に対する意義の認識が弱いということも感じました。以前は開催校が集まってもっと積極的に打ち合わせをしていたように思います。管理職として、担任への指導も弱かったのかもしれませんが。いずれにしても「やればいい」というのではなく、「なんのためにやるのか」という目的ねらいをしっかりとって参加しなければならないと思いました。

- 民泊家庭ごとに体験する内容が違うので、事前の準備や指導で迷うこともある。事前に概要だけでも把握できておく事前指導に必要なことを考えることができる。
- 芸北に住んでいる子は普段から田舎暮らしをしており、田舎暮らし体験と言われて豊平に行っても芸北の方が田舎だけ？と疑問にもつ子が数名おりました。
- 7～9月実施の場合、安全面(マムシ、ハチ、クマ)に少し心配があります。
- 養魚場など、声が聞こえにくいことがあることだと思います。

(取組の工夫と改善点)

- ◎協力家庭の高齢化対策と受け入れ家庭の開発(若い世代の家庭)、活動内容の工夫。
- ◎提出物が多く時期も別々だったりするので、なんとか整理して統合できるものは一緒にするとか、昨年度のデータにアクセスしやすくするなど工夫ができたと思う。
- ◎プログラムの進行を教育委員会の方がしてくださるとありがたい。
- ◎学校の先生は最少人数で良いと思います。そのあたり実施前に打ち合わせると良いと思います。特に2校以上が合同実施する場合、両校の管理職が行くほうが良いといった忖度が働きます。担任のみでも良い活動もあると思いました。
- ◎八重小学校は、単独での体験となるため、他校との交流がない。同じ町内の同級生と接することで、違った価値観をもった他者に対する理解を深めさせたい。
- ◎コロナも明けたので、もう少し多くの学校で集えたらいいなと思います。
- ◎以前に比べて担任への負担がかなり削減できているので良い。

- ◎民泊家庭での体験活動をグループでシェアする時間があつたらどうだろうか。(時間制限があるので難しいとは思いますが)
- ◎児童の交流やグループの目標設定にもう少し時間をかけたり、目標に対するふりかえりができる時間を設定してみてもどうか。
- ◎せど山体験の際、薪割り機の台数を増やし、時間短縮をはかってほしいです。
- ◎私自身が初めて参加しましたが、北広島町の良さを知るためにとても良い取り組みだと思います。
- ◎他校との交流や共同作業は実施したいです。
- ◎単独校だったためできたことではあるが、1日目と2日目は、活動の写真をまとめ、5年生保護者にtetoruで配信した。「活動の様子が分かり安心した。」との声を多くいただいた。
- ◎せどやま市場の指導者反省会でも出されたが、薪割り機の順番を待つ時間が長かったので、早めに薪割り機での作業を始めるか、台数を増やすかするとよいのではないかな。
- ◎せどやま市場での終わりの会で、せどやま券について説明を受けて知り、受け取って喜んだあとで、その券の使い道が決められていること(アイス)が分かり、不満を口にする児童があつた。せどやま券がもらえることについては伏せておくことになっていたため、各校での事前指導はできない。券について伝える際に、合わせて今回の使い道は決まっていることまで伝えてもらえるとありがたい。
- ◎事前の交流会も形式があると嬉しいです。
- ◎民泊前にペアの学校と交流した。民泊前に前年度の写真をたくさん見せ、見通しをもたせた。

【6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」について】

(成果)

- 植松さんという「人」の持つ価値が非常に大きいと感じました。この取り組みを活かしつつ、各校のキャリア教育の充実が必要と思います。
- 植松さんの話は将来や今の自分について考えることができ、ありがたい。ロケットは夢があり、素晴らしい体験だ。
- プログラムが安定しているので実施への負担が少ないです。
- 植松先生の思いが児童にしっかり伝わっており、学校生活においても刺激となっていると感じた。
- 中学進学を前にした6年生にとって、夢や将来について考えさせるよい機会となっている。
- 町内全6年生が集まることで、他校の児童との触れ合い（ロケット制作では他校の児童と教え合う姿が見られた）があり、中1ギャップの解消にもつながると感じた。
- 6年生児童にマッチした内容で良いと思います。
- 成果は、夢の実現に向けて少しずつ自分の生き方を考え始めたこと。植松さんのお話はとてもわかりやすく、普段お話が聞けない児童もこの日はとても集中して聴き入っていました。また、ロケット制作で、他校の児童との交流が自然に生まれていました。特支の児童の子に、他校の児童が熱心に教えている姿を見て、とてもほっこりしました。
- 講演の内容を子どもたちがよく覚えている。

- 子どもたちの中で、好きなことを仕事にしたいという思いが、感想文から読み取ることができ、夢を持つことの大切さや、協力して物事を進める楽しさを感じられたのではないかなと思う。
- 植松さんの講演は、児童が将来の夢を考えたり、これからの生活に活かせることがたくさんあり、とても良かった。
- 植松さんのお話を聞くことは、児童にとって、とても良い経験になったと思います。自分の将来について考えるきっかけになっていると思います。夢を持つことの大切さ、それを実現しようとする素晴らしさを学ぶことができたと思います。今年度は、ロケット作成の班が町内小学校の合同班だったので、交流ができてよかったです。
- 夢をもっていいんだ！夢をもっていてよかった！夢を叶えたい！と多くの児童が思える事業だと感じました。自分自身もつい子ども心にもどって楽しくお話を聞くことができました。
- 他校との交流ができる。
- 夢や将来について考える時間となる。
- 理科、科学に対して興味関心が高まる。
- 夢をもつことについて、前向きな気持ちをもつことができた。
- 植松さんのお話がとても分かりやすく、子どもたちが自分の将来について前向きに考えることができるようになった。
- 中学校へ進学する6年生にとって植松先生のお話はとても価値のあるお話だった。将来の夢について考えることの多い学年でもあり、講演会での言葉は6年生の心にとっても響いていた。
- 色々な学校の児童と協力してロケット制作を進めることは、中学校に向けてよい経験になると感じた。

(課題)

- 準備と当日の進行は、改善すると良いと思いました。
- 植松先生の話は、機会あるごとに児童に思い出させることが必要

- ロケット発射の際の安全性を考える必要がある。（発射のときや、発射位置など）
- 他校の児童との交流をもっと深められるとよい。
- ロケット打ち上げのペース配分、グループ分け、声かけをどこまでこちらがやってよいのか戸惑った。
- ロケットを外に飛ばしに行くときの移動の仕方は改善が必要。ロケットを持ち、各学校ごとに集合・整列し、移動するとよい。

(取組の工夫と改善点)

- ◎北広島町内の人材開発（この地だからこそ頑張っている「人」）
 - ◎前日準備、ありがたかった。
 - ◎全体進行は教育委員会が担当してほしい。
 - ◎ロケットを飛ばす時、声を。今年はいきなり打ち上がり危ないと感じた。
 - ◎芸北小は移動に時間がかかるので、今年同様ご配慮いただけると助かります。
 - ◎前日設営準備は、学校への動員は、なくなると助かります。遅れても良いからという感じでしたが、やはりはばかり感覚は現場にあります。前日の会場準備設営は、学校への動員はなしにしてもらえると助かります。また、当日の進行も生涯学習課でしていただく方が負担が少ないです。今回も急な代役を引き受けた片桐先生も大変そうでした。活動の流れや道具や場所・進行をわかっている生涯学習課で進めていただきたいと思います。
 - ◎ロケットを飛ばす際にみんなでカウントダウンするとか、せめて同じグループで飛ばすことを予告しながら一体感持って打ち上げるなど、折角のメインイベントの最高潮を盛り上げると良いです。淡々と次々と飛ばすのみで始まったのでどの発射台から飛ぶのかも分かりにくく、もう少しドラマチックにできそうなのでもったいなかったです。
 - ◎以前の担当職員は上手に盛り上げていました。発射のさせかたなども改善できると思います。
 - ◎毎年、植松先生を招聘することが大変だと感じているが、教育委員会の方の尽力により、得難い経験ができており、とても有難い。
 - ◎この経験が、「北広島町に住みたい」にどうつなげていけるのか、ということについて改めて考えることが必要だと感ている。（学校として、どのように取り組んでいけばよいのかを含め）
 - ◎オオアサ電子とのコラボがあったら面白いと思います。
 - ◎学校は直接は関知しませんが、多額のコストがかかっていると思います。コストにあった成果を出し続けなければならない。
-
- ◎ロケットを発射する際に、順番を待っている児童、発射し終わった児童に対しての指導を事前にしておくとい体感が生まれて更に良い雰囲気になるのではないかと感じた。
 - ◎全体の仕切りはどこだったのでしょうか。ロケットの発射も突然始まったので、安全面での改善が必要だと思う。
 - ◎ロケットを作成しながら、児童同士が話をするなど、もっと交流ができると良いと思いました。
 - ◎班でのロケット制作の際、どの班もまずは自己紹介をした上で自由に進めていく流れが良かったのかもしれません。（名前も呼び合えず、ただだまって黙々と取り組んでいた児童もいたため）
 - ◎グループ交流の際にアイスブレイクがあるとよかった。
 - ◎児童同士の関わりを増やすために、ペンや道具は少なめに用意する、立って作業するなどすれば、特別な仕掛けはなくても、関わりがもちやすいのではないと思う。
 - ◎1回限りではなく、年間を通して続けていくことができるとよいと思う。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」中学校事業について



芸北中学校

大朝中学校



千代田中学校

豊平中学校



北広島ふるさと夢プロジェクト事業は、町内小中学校で地域の資源（ヒト・コト・モノ）を生かし、発達段階に応じた学習を行っている。「ふるさとを愛し、誇りをもつ心を育てる」ことを目的に掲げ、事業の計画を行い、実施している。

令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告

芸北中学校

1. 実施した活動について

実施した活動：芸北茅プロジェクト

日時：令和5年5月25日（木）～12月9日（土）

場所：芸北地域

人数：中学校1・2年生21名、教員9名

ねらい：芸北に生えている茅（ススキ）を利用することで、伝統的な建築物の保存のための技術を伝えるとともに、ススキ原の生物を守り、地域通貨の流通を通じて地域を活性化させる。このことにより、生徒たちが地域の資源や自然、経済について学ぶ。



2. 生徒の感想

芸北茅プロジェクトを通して、仕事の難しさと大切さに気付きました。どうしたら人がたくさん来るポスター・チラシが作れるか、また放送をどのようにしたらよいかなど工夫しました。仲間と協力し考えるなどの大切さ難しさを学ぶことができたので、これからの人生に生かそうと思いました。



3. 活動を終えて

何年も続いている取組で、茅葺き屋根の建物の見学から始まり、これらの文化財を守るための茅をどのようにして集めるかを考え、広報活動を決めていきました。今年度は久しぶりに「広報きたひろしま」を利用した宣伝も行い、12月9日の茅金市場では茅束188束を持ってきて頂きました。芸北茅プロジェクト実行委員会の地域の方との連携を密にすることでたくさんのお力添えを頂きました。生徒たちもたくさん茅を集めることができて自信になったと思います。ありがとうございました。

令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告

大朝中学校

1. 実施した活動について

1年生が国の天然記念物であるテングシデ群落について学び、テングシデ群落のPR活動を行った。広島市内で、テングシデについての聞き取り調査を行い、もっと多くの方にテングシデを知ってもらうためにどうするかを自分たちで考え、カレンダーの作成・販売を行うこととした。カレンダーには自分たちが描いたテングシデのスケッチや写真を入れたカレンダーを千代田と吉田の道の駅で販売することにした。カレンダーの作成に当たっては、集落支援員さんからテングシデの希少性や保存活動について話を聞いたり、地元の画家の指導のもとにスケッチを行ったりした。



2. 生徒の感想

テングシデの歴史を知り、地域の方々が大切にきてきて今の姿があるということが分かった。春夏秋冬でいろいろな姿を見せるということも分かった。テングシデの魅力を発信し、行きたくなるようなキャッチフレーズを考えてカレンダーを制作することができた。



3. 活動を終えて

生徒たちは、「テングシデの魅力を発信するにはどうすればいいか」を自分たちで考え、地元の方をはじめ、様々な方の協力を得ながら活動に取り組んだ。聞き取り調査なども積極的に行い、テングシデに対する地域の方の思いにも触れることができ、活動を通してテングシデの魅力や大朝の良さに気付くことができた。



令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告

千代田中学校

1. 実施した活動について

1年生の総合的な学習の時間に「住みたい町の提案」と題し、中学生として貢献できる取組を行った。

○提案に向けて「どんぐり財団」「町役場財政政策課」「チョダパック」に来ていただき、北広島町を活性化させるための取組や現状について話をさせていただいた。

○中学生目線での「住みたい町の提案」を作成した。

2. 生徒の感想

○クリスマスの飾りつけをしました。千代田中学校1年生で地域のまちづくりに参加することが出来て良かったです。

○自分たちが提案したことが実現されて「夢が形になっていく町」だと思いました。

○どんぐり財団の方々が、準備をしてくれて実際に形になって、来た人が楽しめるものになったと思います。

3. 活動を終えて

「住みたい町といの提案」という授業の中で、様々な方々からお話を聞いて生徒一人一人が北広島町の魅力やどのようにすれば活性化するかを考え、まとめることができた。また、実際に生徒が提案した「クリスマスツリーの設置」もどんぐり財団の協力のもとで実現することができ、生徒の自己有用感を高めることができた。



令和5年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告

豊平中学校

1. 実施した活動について

1月に1回、そば打ちクラブに所属する11人の生徒が豊平どんぐり村にあるそば道場「どんぐり庵」に集まり、豊平手打ちそば保存会の方に指導を仰ぎながら、豊平の伝統文化のそば打ちに取り組みました。日頃は段位認定を目指して取り組んでいますが、特に今年とはよひらそばまつりで、4年ぶりに多くのお客さんにそばを振る舞うことができました。



2. 生徒の感想

自分の打ったそばを家の人が喜んでくれたのがうれしかった/上手にそばがうてるようになってよかった/「段」がとれて安心した/そば打ちクラブに久しぶりに行っても保存会の方が優しく指導してくれてうれしかった/そば祭りで、たくさんの人に食べてもらえてよかった/そばをうって販売するそば祭りは、良い経験になった/地域の特徴にふれられた/豊平の伝統を受け継ぐことができた。



3. 活動を終えて

地域の保存会の方に指導していただく良い機会になっています。生徒は皆そば打ち自体を楽しんでいて、今年度とよひらそばまつりで、自分たちが作ったそばを多くのお客さんに販売して食べていただいたことは何より貴重な経験で、今後の意欲にもつながっていくものと思います。

お わ り に

北広島ふるさと夢プロジェクトは、「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」を目的としています。

これまで、地域のひと・もの・ことに関する学習や町内企業・施設での体験学習を通じて町内あるいは近隣学校の同学年同士の親睦を図る取組を行い、本町の豊かな自然・歴史・文化を生かして児童生徒一人一人の郷土への理解と愛情を深める学びを広め、ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子供の育成を図ってきました。

新型コロナウイルス感染症も、令和5年5月に五類感染症となり、ゆっくりではありますが以前のような形で事業を行うことが出来てきています。小学校事業では、4年生は町内お宝発見ツアー、5年生は学校間交流を復活させた民泊、6年生は株式会社植松電機代表取締役の植松努さんによる、「夢と希望をのせてロケットを飛ばそう」講演会を行う事が出来ました。中学校事業でも各学校によるキャリア教育の推進を踏まえた上で事業を行っています。これらの「体験活動」を実施することにより町内の仲間意識の醸成も図られてきています。町内の高等学校を卒業される生徒の方と本事業について話をした際、民泊、ロケット講演会、それぞれがとても思い出に残っているとの話をいただき、嬉しく感じています。

社会状況の変化の中で、改めて人と人のつながる社会の必要性を考えるとところです。コロナ禍はこれまでの社会構造に大きな疑問を投げかけ、郷土愛の創造はよりいっそう重要な課題となっています。新しい生活様式のなかでも、ふるさと「北広島町」で活躍する大人たちと様々なかたちで触れ合うことで、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、将来の地域を支える力につながればと思っています。

北広島ふるさと夢プロジェクト事業も、来年度は10年目を迎えます。効果検証を行いながら、引き続き事業を実施していきたいと思います。

今後も、子供たちが予測のつかない社会の中でも、たくましく生きぬく力を身につけるための学びを進められるよう、地域・保護者の皆様には引き続きご理解、ご協力を賜りたく存じます。

北 広 島 ふ る さ と 夢 プ ロ ジ ェ ク ト 応 援 隊
副 隊 長 池 田 庄 策
(北 広 島 町 教 育 委 員 会 教 育 長)